

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月
福島大学

目 次

資料 1-1-1 市民団体との連携による地域交流・活性化イベント	1
資料 1-1-2 「学生企画科目」	1
資料 1-1-3 専門演習合同発表会の開催	2
資料 1-1-4 「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」採択事業 「産直屋台いなGO・街と農村を繋ぐ地域企業」（経済経営学類）	2
資料 1-1-5 夜間主コース学生との懇談会	3
資料 1-1-6 夜間主コースアドミッションポリシー（案）	3
資料 1-1-7 理工学群の新カリキュラム	4
資料 1-1-8 共生システム理工学類における3段階のグループ制度	4
資料 1-1-9 「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」採択事業 「科学的理解の深化を促す地域連携型理工教育」（共生システム理工学類）	5
資料 1-1-10 経済学研究科 郡山教室	6～7
資料 1-1-11 地域の金融機関との連携による「会計戦略研究会」	8
資料 1-1-12 共生システム理工学研究科（修士課程）の概要	9
資料 1-1-13 人間発達文化研究科の構成	10
資料 1-1-14 人間発達文化研究科のカリキュラム	11
資料 1-1-15 地域政策科学研究科の一年修了型カリキュラム	12
資料 1-2-1 各学群・学類ごとのアドミッション・ポリシー（案）（抜粋）	12～13
資料 1-2-2 経済学研究科 実務家・特定課題研究履修モデル	13
資料 1-2-3 共生システム理工学研究科（博士課程）	14
資料 1-2-4 学習ガイドブック「学びのナビ」	15
資料 1-2-5 上級生による下級生への学習支援体制	16
資料 1-2-6 能力別クラスの受講状況	16
資料 1-2-7 学術振興基金による英語検定受講料補助	16
資料 1-2-8 学習ポートフォリオ	17
【著作権】資料 1-2-9 キャリア教育の充実	18
資料 1-2-10 成績不良者への早期警告措置	19

資料 1-3-1 F D 活動	19～20
資料 1-3-2 「福島大学まなび推進機構」構想案	21
資料 1-3-3 福島県立図書館との「相互協力に関する協定」	21
資料 1-3-4 「福島大学学術機関リポジトリ」の登録件数・アクセス統計	22
資料 1-3-5 人間発達文化研究科における研究サポート	22～23
資料 1-3-6 学術振興基金による大学院生の研究発表支援	23
資料 1-3-7 人間発達文化研究科の特色あるカリキュラム	24
【著作権】資料 1-4-1 学生生活実態調査結果に基づく改善	25
資料 1-4-2 学生寮改修工事	26
【著作権】資料 1-4-3 「全員研修用教材DVD作成による回復力共有体験の検討」プロジェクト	27
【著作権】資料 2-1-1 プロジェクト研究所	28
資料 2-1-2 人間・心理学系の研究成果	29
資料 2-1-3 文学・芸術学系の研究成果	30～32
資料 2-1-4 健康・運動学系の研究成果	33
【著作権】資料 2-1-5 外国語・外国文化学系の研究成果	34～35
【著作権】資料 2-1-6 法律・政治学系の研究成果	36
資料 2-1-7 経済学系の研究成果	37
資料 2-1-8 経営学系の研究成果	37
資料 2-1-9 社会・歴史学系の研究成果	37～38
資料 2-1-10 数理・情報学系の研究成果	38～39
資料 2-1-11 リーフレット「地域とともに歩む福島大学」(抜粋)	40
資料 2-2-1 福島大学経済学会のディスカッションペーパー	40
資料 2-2-2 学系紹介のホームページ	41
【著作権】資料 2-2-3 プロジェクト研究所、学類ホームページ	41
資料 2-2-4 共生システム理工学研究科に係る外部評価	42
資料 3-1-1 「地域ネットワーク支援」(ふくしまサイエンスぷらっと フォーム)	43～44
資料 3-1-2 「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」	44～45
資料 3-1-3 海外諸大学との協定締結	46

資料 1-1-1 市民団体との連携による地域交流・活性化イベント

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

〔出典：平成 21 年 3 月 9 日
「福島民報」〕

資料 1-1-2 「学生企画科目」

●「学生企画科目」の募集

＜「学生企画科目」について＞

- 「学生企画科目」は、2010 年度から開講予定の新しい科目です。来年度からは単位の認定をおこないます。
- 2009 年度は、＜試行という位置づけのため＞単位認定はおこないませんが、企画を審査した上で、予算措置する場合
- があります（1 件あたり最大 10 万円）。
- 学生が自ら課題を設定し、学習活動、実践活動をおこなうことができます。
- 学内・学外の活動、どちらもできます。

例えば.... *本を読んで憧れていた〇〇さんなど複数の講師を呼んで、連続講義を受けてみたい。
*講演会を開催して、学生や一般の人たちに〇〇について考えるきっかけを作ってみたい。
*〇〇のテーマについて書かれた本をみんなで読んで、より深く学んでみたい。
*NPO を設立して運営するノウハウを学びたい。 ——— 自由な発想で、課題を設定してください！

＜条件＞

1. 集団でおこなう企画であること。
2. 行政政策学類の学生が最低一人ははっていること。
3. 今年度内に実施できる企画であること。
4. 企画について助言する学類の「担当教員」を自分たちで依頼すること。
5. 2010 年 2 月頃に「発表会」を開催すること。

●「学生企画科目」一覧

- 「フェアトレードから見える世界—私にできる国際協力」
*行政政策学類地域と行政専攻 2 年生（5 名）＋3 年生（2 名）
- 「複数大学ゼミとの合同合宿および研究発表会による、行政政策学類ゼミ活動の活性化」
*行政政策学類社会と文化専攻 3 年生（4 名）＋4 年生（9 名）＋大学院生（2 名）
- 「喜多方市山都町藤巻集落の活性化を考える」
*現代教養コースコミュニティ共生モデル 2 年生（19 名）＋4 年生（2 名）＋行政社会学部 4 年生（1 名）

資料 1-1-3 専門演習合同発表会の開催

經濟経営学類教員 各位

平成 21 年 12 月 10 日

経済経営学類
准教授 小山良太

経済経営学類専門演習合同発表会のお知らせ

経済経営学類専門演習合同発表会の詳細が、下記の通り決定いたしました。関係する教員の皆様は、ご確認の上、ご参集くださいますよう、お願い申し上げます。

記

1. 日 時 : 12月18日(金) 13:00~17:00 (12:45 集合)
2. 場 所 : L3 教室 (控え室 L2 教室)
3. 報告時間 : 1 ゼミ 15 分程度 (質疑応答含む)
4. 報告形式 : パワーポイント使用
5. 報告順番 : 以下の通り

開始時 ゼミ名

開始時	ゼミ名	テーマ
-----	-----	-----

13:00 上野山ゼミ 杜氏コミュニティとイノベーション

（「利き酒」を実施いたします。ご協力お願いいたします。）

13:30 遠藤ゼミ 福島大学経済経営学類プロモーションビデオの効果

13:45 沼田ゼミ 福島大学における弁当容器回収の取り組みについて

(アンケートを実施いたします。ご協力お願いいたします。)

14:00 休憩

14:05 能沢ゼミ 3年で一人前!～A銀行における新卒採用者への教育訓練～

14:45 美馬ゼミ 福島市の活性化について

15:00 休憩

15:05 飯島ゼミ 山形県高島町の有機農業と地域

15:20 西川ゼミ 南会津町台板橋地区の活性化策についての提案

15:35 山川ゼミ 南会津町中心市街地調査について

15:50 休憩

16:00 清水ゼミ 福島県南会津町館岩地区の地域づくりビジョン

16:15 尹ゼミ Freshman の指摘で福島市を救え～福島市活性化へのヒント・調査活動で得られたものとは～

16:30 小山ゼミ 農商工連携と地域起業-福大まちづくり株式会社・MF-

なお、開始時はあくまで目安であり、若干のズレが生じる場合があります。予め、ご了承ください。

(出典：経済経営学類)

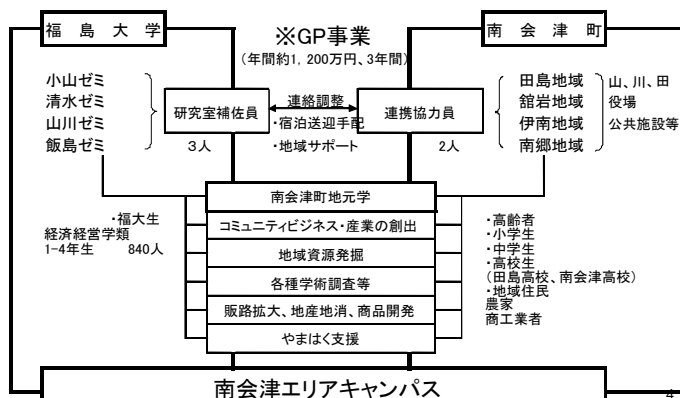
資料 1-1-4 「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」採択事業
「産直屋台いなGO・街と農村を繋ぐ地域企業」（経済経営学類）

「産直屋台いなGO・街と農村を繋ぐ 地域企業」の特徴①

- **田舎のアンテナショップ**
→福島県南会津町伊南のアンテナショップとして、伊南地域の素材・情報を発信
- **原料産地の6次産業化(付加価値創造)**
→農作物を生かした新たな商品開発
- **中山間地域の総合産地戦略**
→農村(伊南)の地域活性化及び産直活動の組織化
- **中心市街地の空き店舗対策**
→中心市街地(福島市)の空洞化の改善
- **大学発ベンチャー**
→屋台村の出店、Marhce F の設立
- **学生参画**
→専門演習の一環として学生が参加



「産直屋台いなGO・街と農村を繋ぐ 地域企業」の特徴②



(出典：評価室)

資料 1-1-5 夜間主コース学生との懇談会

平成 20 年 6 月 30 日（月） 17：00～18：00 開催

副学長から挨拶の後、自由な発言を求めた。

※主な意見

- ・教養を身につけるコースとはいっても、3、4 年では、あまりにも専門科目の数が少なすぎる。
- ・会計分野の演習が夜にはない。目立った改善がない。
- ・私のモデルは昼も履修できるので、満足度が高いのではないかと思う。
- ・会計学等で段階をふまなければとれない科目があるが、夜のコースで、きちんと設定してほしい。
- ・大学のホームページでも社会人を増やす旨が出ているので、方針どおりきちんと位置付けて改善してほしい。

平成 20 年 9 月 25 日（木） 18：00～19：30 開催

副学長から、前回の懇談会で学生から出された意見・質問のいくつかについての改善・検討経過について報告があり、その後、自由な発言を求めた。

※主な意見

- ・「会計学」関連の授業を増やしてほしい。
- ・夜間主コース生にとって「仕事」と「勉学」の両立は難しい。必ずしも職場の理解が得られるとは限らない。
- ・カリキュラム・時間割において、モデル（モデル専門科目）の配置に偏りがある。
- ・広報において、「良い面」「明るい面」だけ強調せず、入学にあたっての「心構え」等も率直に伝えるべきである。
- ・1～2 年次は、履修科目に困らないが、3～4 年次においては（特に文化教養モデル）、「重複科目」が多く、他のモデル科目をやむを得ず履修している。

平成 21 年 6 月 30 日（火） 17：00～17：55 開催

「平成 20 年度卒業 現代教養コース進路状況調」等の資料を配布するなどし、発言のきっかけを提供した上で、発言を求めた。

※主な意見

- ・専門科目は隔年開講のため、実際に履修できる科目は限定されている。
- ・1 年生の履修可能科目は、専門科目以上に選択の余地がない。ひとコマに 1 科目の時限もある。

平成 21 年 9 月 24 日（木） 18：00～19：20 開催

前回までの懇談会で学生から出された意見・質問について若干確認した上で、6 月以降、学生生活を送って気づいた点について、自由な発言を求めた。

カリキュラム関連への要望については、今後のカリキュラム編成への要望として承った。

※主な意見

- ・夜の科目内容については、昼と比べても遜色ないが、科目（専門科目）数が絶対的に少ない。
- ・夜間の学生は、昼の学生よりも自習時間の確保が難しいため、レポート課題が重なると大変になる。しかし、手を抜いてもらっても困るので、受験生にも、それ相当の努力が入学後も必要であることを知らせた方がよいのではないかと思う。
- ・社会人のコースといいながら、高卒直後の若年層が増えているのではないだろうか。また、入り易さ（センター試験を必要としないなど）から、安易に受験する若者もいるのではないか。

（出典：評価室）

資料 1-1-6 夜間主コースアドミッションポリシー（案）

◆推薦入試

人文社会学群夜間主コース（現代教養コース）は、現代社会が直面する問題を解決するための、あるいは人間性を探究するための、“新しい教養”を求めようとする人のためのコースです。新しい時代には、現実社会に対する関心を持ち、広い視野に立ってものごとを考えようとする人、自ら課題を発見し、自らの力で考え取り組んでいこうとする人が求められています。本コースはそのような課題意識を有する学生を受け入れます。

昼間に仕事を持ちながら 4 年間修学するということは、昼間コース以上に強い意志を必要とします。働きながら学びつつ、自己の目標に向かってしっかり努力することが必要です。選抜は、面接の成績によって行いますが、何のために夜間主コースの学びを選択するのかということをきちんと考えたうえで受験してください。

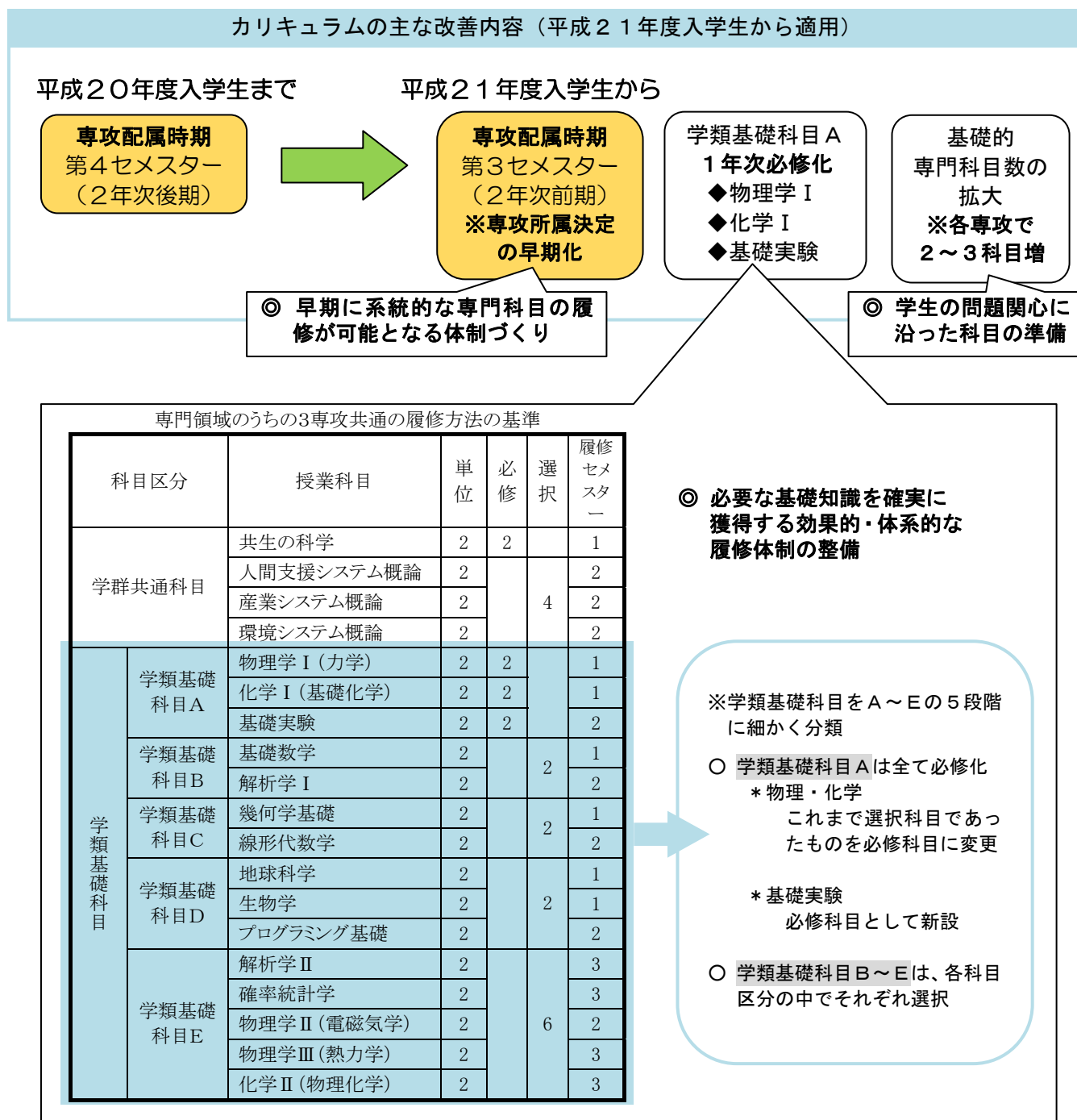
◆社会人特別選抜

人文社会学群夜間主コース（現代教養コース）は、現代社会が直面する問題を解決するための、あるいは人間性を探究するための、“新しい教養”を求めようとする人のためのコースです。社会に対する広範な関心を持ち、広い視野に立ってものごとを考えようとする人、自ら課題を発見し、ねばり強く考え、自ら判断していこうとする人が今の時代には必要です。そのような課題意識を持ち、働きながら知識・能力を高めたい、あるいは自己を高めるために学びたいという希望をもつ社会人を積極的に受け入れます。

本コースでは、幅広い学びができる反面、何を学ぶのかという目標をきちんと掲げ、それに向かって努力する姿勢が必要とされます。選抜は面接及び小論文により行いますが、勉学意欲と課題意識を鮮明に持つことと同時に、大学での学びにとって大切な読み、書き、理解する力が求められています。

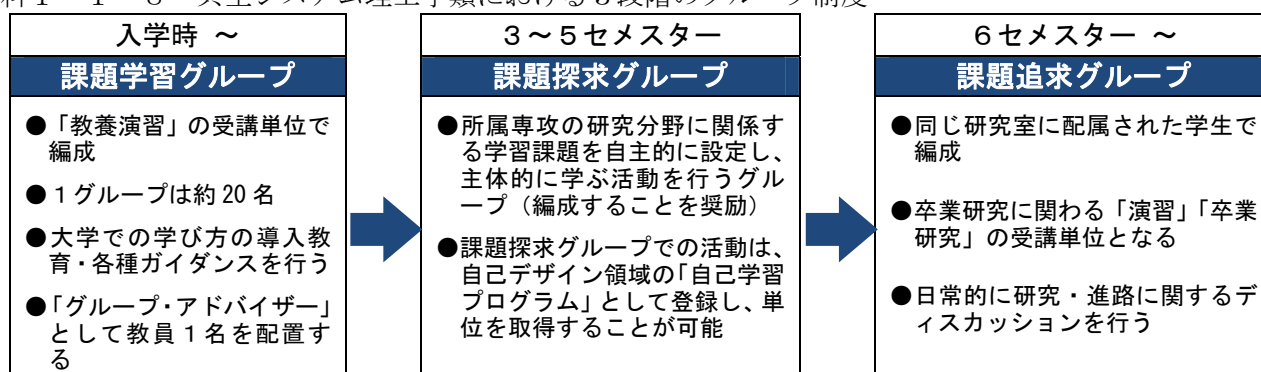
（出典：平成 22 年 1 月 15 日現代教養コース運営委員会資料）

資料 1-1-7 理工学群の新カリキュラム



（出典：評価室）

資料 1-1-8 共生システム理工学類における 3 段階のグループ制度



（出典：「共生システム理工学類学習案内（平成 21 年度入学者用）」）

資料 1 - 1 - 9 「質の高い大学教育推進プログラム（教育G P）」採択事業
「科学的理解の深化を促す地域連携型理工教育」（共生システム理工学類）

科学的理解の深化を促す

地域連携型理工教育

科学館との連携による「伝える」ことを通した
新しい教育プログラムの実践と
地域科学教育のレベル向上

概要

本事業は、科学館という公共の場で「一般市民向けの科学教室や展示を企画・製作・実施する」という目標を、モノづくり指向の工学系学生とヒトづくり指向の教員志望学生の両者からなるチームに与え、その距離感を近づけることで、科学原理や手法に対する理解のレベルと、それを「伝える」能力（科学コミュニケーション能力）の向上を相乗的かつ飛躍的に高めることを目的としている。さらに、本取組を通して、地域の科学館の活性化や地域の子どもの理数系教育レベル向上にも寄与しようとするものである。

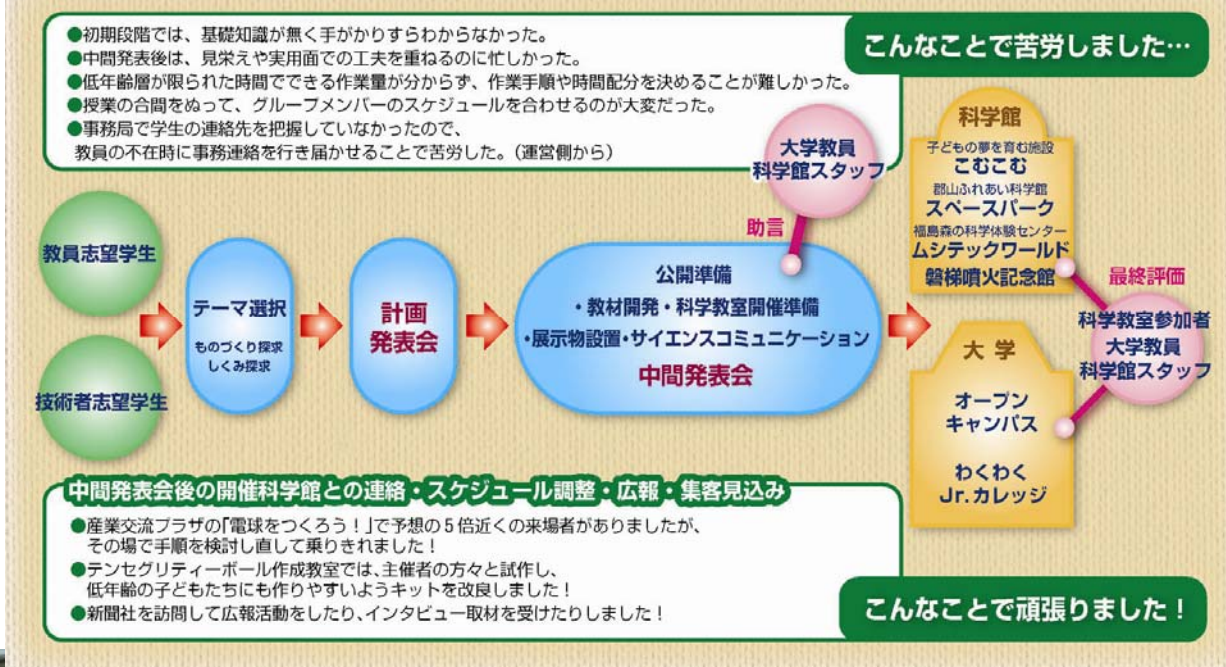
目的

1. 理工系の知識を活用したデザイン・ものづくり・解析の能力
2. 科学コミュニケーション能力
3. 自発的・自律的な活動を行える積極性と社会性
4. 地域の子どもの理数系教育レベルの向上
5. 科学教室の多様化による科学館の活性化

実施期間 平成 20 年 10 月平成～23 年 3 月
福島大学共生システム理工学類

特徴

学生による科学館での単なる演示実験と異なり、科学館との連携による「課題探求活動（4・5セメ）」として位置づけを明確にし、評価においても、中間評価・最終評価の二段階を設定し、学生のモチベーションを高める工夫をしている。



学生の計画発表会



サイエンスフェスティバルでの様子

郡山教室の開設について

概 要

経済学研究科では平成20年度より郡山駅前教室にて一部授業を開講しています。これらは、福島県経済の中心地である郡山におけるビジネスパーソンへの、高度に専門的かつ実践的な教育機会へのニーズに応えるものです。担当講師については、経済学研究科スタッフだけではなく、全国各地から優秀な研究者や実務家を招聘して良質なコンテンツを提供します。土曜日または日曜日の開講を基本としており、働きながら学びたい現時点および次世代のビジネスリーダーをターゲットとしています。

平成21年度開講科目

※日程・講師等は変更する場合がありますのでご承知おきください。

第1期（平成21年5～7月）

○経営学特別研究（コスト・マネジメント・システム） 土曜日6・7時限（18：00～21：10）

原価計算の理論・計算原理を基礎知識とし、原価管理の歴史・理論・実態を学び、企業におけるコストダウンのあり方を考える。

○経営学特別研究（サービス・ビジネス・システム） 日曜日3～4 時限（13：00～16：10）

さまざまなサービス・ビジネスについて、そのサービスの特徴や独自性についてはもちろん、それらにとどまらず、継続的な提供と競争優位を可能としている事業システムにまで踏み込んで講義する。以下のトピックでの、外部講師によるオムニバス授業を予定している。

※ビジネスコンサルティングにおけるインターフェース

※一流都市ホテルにおけるおもてなしのマネジメント

※ホスピタリティ+カルチャービジネスの場としての京都花街

※地域活性化とスポーツビジネス

※コンテンツビジネスとしての映画産業

第2期（平成21年8～9月）

○経営学特別研究（コーポレート・ストラテジー） 土曜日または日曜日

経営戦略の基礎理論を、事例も豊富にとりあげつつ講義する。

第3期（平成21年10月～平成22年3月）

○経営学特別研究（ビジネス・リサーチ） 土曜日

組織調査・マーケティング調査に有用なデータの収集と分析の手法の基礎を実習的に講義する。

○経営学特別研究（キャリア・マネジメント） 日曜日

メンタリングとキャリア・プランニングの問題を実習的に学ぶ。企業研修などの経験が豊富な外部講師による授業を予定している。

在学生からのメッセージ



江川 正規（経営学専攻1年）

ゼビオ（株）勤務

「チャンス・到来！」

現在、私は福島大学大学院経済学研究科の院生として経営学を中心として学んでいます。

仕事は、商品の仕入を担当する部署のチームリーダーとして、また自らもバイヤーとして日々実践の中に身をおきながら業務を行っている毎日です。このような環境の中で、院生としての立場から、客観的に業務の遂行方法が正しいかどうか？業務を行ううえでの思考が適切かどうか？を判断するものさしとして、非常に役立っています。実践と学説の照合が身をもって体験できる今の環境は、まさに今後の私の人生において重要なターニングポイントになっています。



朱 博（経済学専攻1年）

中国東北部の遼寧省瀋陽市出身の留学生です。瀋陽市の高校卒業後、福島大学経済学部に入學し、大学院に進学しました。学部3年生の終わりに、大学院進学が就職かでやや迷いましたが、未だ知識も足りないと考え、さらに大学院で2年間鍛えることを決意しました。

大学院は少人数の授業で、先生の指導は懇切丁寧です。また社会人と一緒の授業では、別視点の意見も聞くことができ、自分の視野も広がります。私の修士論文のテーマは、中国の大都市（瀋陽市を予定）近郊での都市化・土地流動の問題で、「演習」では各人のテーマに関連した先行研究論文を読み、討論します。

大学院での研究学習を、皆さんとともに分かち合うことができた大変嬉しいです。

この部分は著作権の関係で掲載できません。

（出典：平成20年5月30日
「日本経済新聞」）

（出典：経済学研究科パンフレット）

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

(出典：平成20年5月17日「日本経済新聞」)

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

会計戦略研究会

〈活動報告〉

【平成20年度】

昨年3月発足以来、ほぼ毎月第3金曜日に福島大学サテライト「街なかランチ」で研究会を開催しており、2月の開催が11回目になる。本研究会の目的は、①東邦銀行との産学連携を推進するため、両者の学術交流を密にする、②地域の経営者や会計担当者に幅広く開放し、地域経済の活性化に貢献する、③本学の学生や院生に発表や討論参加の機会を与え、実務者からの刺激を受ける、ことである。発表者には、本学の教員や東邦銀行の行員だけではなく、本学の大学院生、他の大学院生、地元の税理士など多彩な顔ぶれを擁している。また、20年11月には福島ビューホテルで「会計戦略フォーラム」を開催し、多数の参加者から好評を頂いた。開催の度に新規参加者も増えてきており、今後も継続して行う予定である。

【平成21年度】

一昨年3月発足以来、ほぼ毎月第3金曜日に研究会を開催しており、2月の開催が20回目になる。また、年に一度フォーラムを開催し、市民にも開放している。今年は『地域活性化フォーラム』のテーマで11月21日にコラッセ福島で行い、福島大学の学生も3チームが報告し大変高い評価を得た。最新のテーマや時代を反映した課題に取り組み、多数の参加者から好評を頂いた。新規参加者も増えてきており、今後も継続して行う予定である。

(福島大学地域創造支援センター年報より関連部分抜粋 下線は評価室による)

「地域活性化フォーラム」

地域の“資源”を考える

参加費
無料

今般、福島大学と東邦銀行が産学連携の一環として運営している「会計戦略研究会」では、地域の“資源”を掘り起こすことが地域活性化には不可欠と考え、これからの福島の大きな飛躍について考えることを目的として開催します。

日 時	開催内容
平成21年 11/21(土) 午後2:00～5:00	■基調講演 午後2:00～2:40 「地域活性化の新キーワード—資源の活用—」 福島大学経済経営学類教授 美馬武千代 ■インデックスセミナー 午後2:50～4:10(発表:1人10分) ①「地域資源の発掘と6次産業化の実践」 福島大学経済経営学類4年生 島橋也(福大まちづくり(株)マルシェ代表取締役社長) ②「観光と東北名産グルメの融合による市街地活性化」 福島大学経済経営学類3年生 出口健太 福島大学経済経営学類3年生 園田祐介
開催場所	コラッセふくしま

会計戦略研究会	
概 要	経済の国際化に伴い、会計も国際化し、これが日本の会計制度にも大きな変革をもたらしている。現在、日本に起きている会計ビッグバンの主要なテーマについて研究し、それを地元企業に定着させるための活動を行う。
構 成	経済経営学類教員 4名
員	大学院生 5名
数	東邦銀行員 10名
	その他、民間企業の財務担当者

(出典:「福島大学地域創造支援センター年報」
2008、2009)

開催内容

■基調講演 午後2:00～2:40 「地域活性化の新キーワード—資源の活用—」 福島大学経済経営学類教授 美馬武千代	■インデックスセミナー 午後2:50～4:10(発表:1人10分) ①「地域資源の発掘と6次産業化の実践」 福島大学経済経営学類4年生 島橋也(福大まちづくり(株)マルシェ代表取締役社長) ②「観光と東北名産グルメの融合による市街地活性化」 福島大学経済経営学類3年生 出口健太 福島大学経済経営学類3年生 園田祐介 ③「安価で豊かな土地(農地)を活用したスローライフ・スローフーズ」 福島大学経済経営学類4年生 村田桃子 福島大学経済経営学類4年生 橋本綾香 ④「地域資源を活かしたソリューション営業とは何か」 東邦銀行 法人営業部 営業渉外課 主任調査役 石川淳一 ⑤「異業種交流は活性化の原点」 東邦銀行 法人営業部 営業渉外課 調査役 丹治真志 ⑥「地域活性化に向けたCSRの取り組み」 東邦銀行 総合企画部 企画課 主任調査役 横山理 ⑦「事業価値とは何か」 東邦銀行 融資管理部 企業経営支援室 調査役 渡辺哲士 ⑧「農林業・観光産業」振興による地域外マネー呼び込みを通じた経済活性化について 財団法人福島経済研究所 研究員 星効氏
--	---

(出典:福島大学ホームページ)

会計戦略フォーラム

— 新しい会計の考え方と事業戦略 —

会計の国際化の進展に伴い日本の会計制度も大きな変革を迫られています。
会計が変われば経営が変わる。

今般、福島大学と東邦銀行が産学連携の一環として運営している「会計戦略研究会」では、時価会計・J-SOXなど新しい会計の考え方について理解を深めていただくことを目的として、下記の通りフォーラムを企画致しました。中小企業の経営者や会計担当の方々、会計に興味のある市民の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	開催場所
平成20年 11月8日(土) 午後1:00～4:00	福島ビューホテル (福島駅西口) 吾妻1(3階)
開催内容	■基調講演 午後1:00～2:20 「会計ビッグバンの衝撃」 福島大学経済経営学類教授 美馬武千代 「中小企業経営として会計制度の変化をどう受け止め活かすべきか」 東邦銀行常務取締役 渡辺正彦 ■パネルディスカッション 午後2:30～4:00 「新しい会計の考え方と事業戦略について」 パネラー 福島大学大学院 高橋秀一 大和田会計事務所 税理士 大和田利明 東邦銀行総合企画部担当部長 坂井道夫 福島大学経済経営学類教授 美馬武千代 東邦銀行常務取締役 渡辺正彦 東邦銀行事務統括部長 本多 謙 コーディネーター
主 催	福島大学・東邦銀行
参加費	無料(直接ご来場下さい、事前申込不要です)

資料 1-1-12 共生システム理工学研究科（修士課程）の概要

● 5 分野の連携体制



(出典：共生システム理工学研究科パンフレット)

● 履修基準

区分	基準	単位数
必修	修士論文研究 I, II, III	6 単位
選択必修	所属分野の基礎領域に含まれる授業科目 (物質科学分野は「物理化学」「無機化学」「有機化学」のうち 2 科目必修)	6 単位
	所属分野の発展領域に含まれる授業科目	6 単位
	所属分野以外の分野の授業科目 (関連領域)	4 単位
自由選択	選択必修科目として選択していない科目 又は他研究科等の授業科目	8 単位
最低修得単位数合計		30 単位

※上記を修得し、本大学院が行う修士論文の審査に合格すること。

● 履修モデル (例：環境システム分野)

養成する人材像

地質や土壌などの自然環境を理解し、水の質を分析化学的に解析できる知識や技術を有し、適切な地下水管理や汚染された土壌浄化が具体的にできる人材

想定される職業領域

環境行政官、土壌浄化関連企業、環境アセス関連企業など

入学時の指導教員との面談により、研究テーマと必要なカリキュラムの決定をする

区分		1年次				2年次				単位
		第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位	
基礎領域	選択	共生システム特論	2	土壌浄化、地下水管理に関する基礎科目を履修する	共生の意義・必要性・有効性について学ぶ		福島県の具体例を実践的に学ぶ事によって地域の課題を把握すると共に、課題解決のための検証を行い、実践力を養う	8		
		地下水盆管理計画特論Ⅰ	2							
		地質学特論Ⅰ	2							
		環境微生物学特論Ⅰ	2							
関連領域 (他分野の科目)	選択	分析化学特論Ⅰ	2	物質に関する基礎的理解を関連科目を履修することによって行い、汚染物質等の理解とその具体的浄化方法の検討に役立てる				6		
		有機化学	2							
		無機化学	2							
			2							
発展領域	選択	具体的な土壌浄化に関連した演習科目を履修する	地下水盆管理計画特論Ⅱ	2	地域実践研究Ⅰ	2	地域実践研究Ⅱ	2	10	
			地質学特論Ⅱ	2						
	必修	修士論文にまとめるための演習を継続的に実施する	環境微生物学特論Ⅱ	2					6	
			修士論文研究Ⅰ	2	修士論文研究Ⅱ	2	修士論文研究Ⅲ	2		
小計								30		
修士論文										
合計									30	

● 地域実践研究 I・II

各分野の発展領域に配置されている科目で、地域との連携を踏まえた実践的研究である。

「地域実践研究 I」

連携している福島県の研究機関において、自分の専門と関係した機関で、自分の専門に関連した具体的な内容について体験的に学習し、地域の課題を的確に捉えることを目的とする。特に、福島県の研究機関では、福島県の課題を解決するために多くの研究が実施されており、福島県の課題を学習することで、自分の研究課題と行政や地元産業界との関連について実践的に学習する。なお、具体的な内容は、希望する機関で異なるので、担当教員と相談し、研究機関が開講しているテーマを確認しつつ履修することになる。

「地域実践研究 II」

連携している福島県の研究機関において、自分の専門と関係した機関で、自分がこれまで学習した内容について実践的に検証する事を目的とする。具体的な内容は対象となる研究機関で異なるが、研究機関で実施している研究・開発テーマと関連し、自らの研究成果を実践的に活用し、その有効性を客観的に理解できる機関や機会を選択して実施する。なお、この授業科目は地域実践研究 I を履修した者が、自分の研究成果をもとに行うことを基本とする。

● 連携を行っている

福島県試験研究機関一覧

部局	試験研究機関
生活環境部	環境センター
保健福祉部	衛生研究所
商工労働部	ハイテクプラザ
農林水産部	農業総合センター
	林業研究センター
	水産試験場
	水産種苗研究所
	内水面水産試験場

(出典：共生システム理工学研究科 学習案内 (平成 21 年度))

資料 1 - 1 - 1 3 人間発達文化研究科の構成

〈人間発達文化研究科〉は人材育成を通して次世代を創出します



人間発達文化研究科は、地域の抱える課題を克服し、次世代を切り開いていくために、人間発達文化学類の教育理念を発展させ、今日必要とされる高度な知識・技術をもって人材育成を図る「人材育成のエキスパート」を養成します。「エキスパート」とは、「経験を通して得た知識を持つ熟練者」を意味します。人間個体の発達や集団的な展開、地域生活と文化を学際的に結びつけ、一体的に研究していくことは、今日の教育や地域を発展させていく上で重要な課題です。

研究科の概要

- 履修年限 2年（長期履修制度適用の場合4年）
- 修了要件 2年以上在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修了研究の審査に合格した者には、修士（教育学）の学位が授与されます。
- 学位（すべて専修免許状に対応しています）
教職教育専攻……修士（教育学）
地域文化創造専攻……修士（地域文化）
学校臨床心理専攻……修士（教育学）
- 取得できる専修免許状
幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校（国語、社会、数学、英語、家庭科、音楽、美術、保健体育）、高校（国語、地歴、公民、数学、英語、家庭科、音楽、美術、保健体育）

教職教育専攻

学校現場で必要とされる教育方法、教育内容、教育理念の高次な統合を目指し、学校改革・授業改革に結びつけるための実践的研究を行い、高い専門性を持つ〈エキスパート教員〉の養成をめざします。

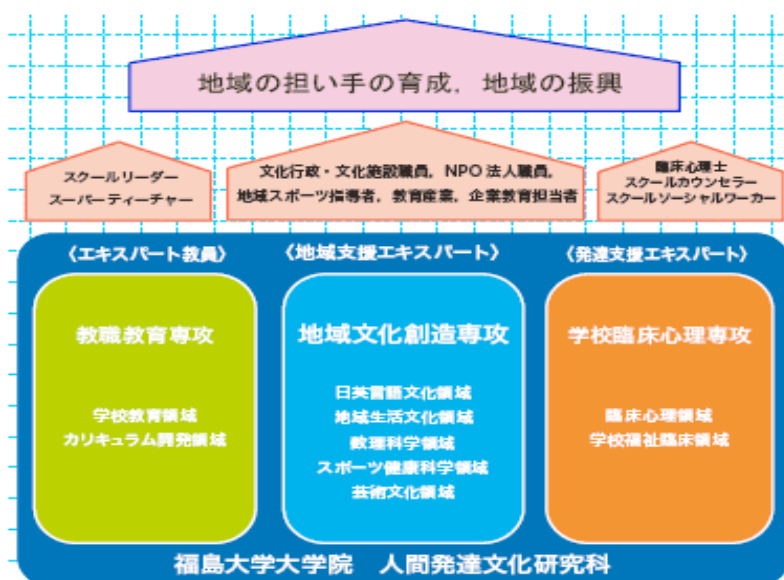
■学校教育領域

学校を中心とした地域における教育システムの研究、教員の専門性向上のための研究、及び人間個体と集団の発達・成長を中心とした人間発達についての総合的な研究を行います。

■カリキュラム開発領域

文化内容の伝達や再構成についての研究を基盤として、各校種・各教科・各領域の教育内容論や指導論など、カリキュラム実践及び開発の研究を行います。

3専攻9領域から構成されます



地域文化創造専攻

諸文化を構成する専門的学問分野における研究・実践力を形成するとともに、地域支援に必要なコーディネート力及び人材育成力をあわせもつ〈地域支援エキスパート〉の養成を目指します。

■日英言語文化領域 言語研究・文学研究を通じて人間や社会に対する深い洞察力を身につけ、文化の橋渡し役として、文化の継承・伝達・創造に寄与する能力を身につけた人材を育成します。

■地域生活文化領域 社会科学と生活科学全般をつなぎ合わせ、現代の社会の実態を把握するための研究方法を身につけ、現代社会が生み出す複合的問題の解決を目指す能力を身につけます。

■数理科学領域 数理諸科学の研究を通して、自然や社会の事象を数理的・論理的・総合的に認識するための教育・研究を行い、社会や企業などの組織で十分に活用できる人材の育成を行います。

■スポーツ健康科学領域 現代におけるスポーツ・体育・健康の諸問題を科学的認識に基づいて解決し、スポーツ文化の発展や、人々の健康的なライフスタイル確立に貢献できる高度な職業人を育成します。

■芸術文化領域 音楽や美術表現の専門的なスキルの獲得及び表現の理論を基礎におき、表現活動を通して地域再生、活性化に結びつけることのできる人材を育成します。

学校臨床心理専攻

臨床心理学及び学校福祉の臨床的な実践研究に基づき、様々な課題を抱える子ども・青年やその家族に対応する効果的な指導・援助・支援を行う〈発達支援のエキスパート〉の養成を目指します。

■臨床心理領域

円滑に学校生活を送ることを目指す教育臨床と子供の発達に関わる発達臨床、精神障害を対象とした病院臨床、非行問題等の心理臨床等のアプローチを行います。

■学校福祉臨床領域

子どもの生活指導、教育相談、学級経営、学校保健・健康教育などの教育福祉を対象とした実践研究、及び教育実践のための授業臨床や学級指導などの実践的研究を行います。

■教育課程の特色

1 人材育成を標榜したカリキュラム構造

高度専門職業人を養成するために、「専門探究力」を高める「課題研究」に加え、「コーディネーター力」や「人材育成力」を育成するための「専攻共通科目」、「領域共通科目」、「領域間連携科目」、「専門演習」を配置しました。また「実践研究」、「プロジェクト実践研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、フィールドでの実践を修了研究に結びつけることもできます。(教職教育専攻、地域文化創造専攻のみ)

2 大学院学生相互の研究交流の重視

今日、高度専門職業人に必要とされる「省察的実践力」(自他の実践を省察することによって得られる実践力)を身につける機会を授業として位置づけ、学生の研究交流による「実践コミュニティ」の形成をめざした「領域コミュニティ」を各領域に配しています。(教職教育専攻、地域文化創造専攻のみ)

3 学校現場と連携した高度な教員研修、コースワーク

スクールリーダーやスーパーティーチャーなど、今日学校現場で必要とされる現代的教育課題に対応できる教員を養成するために、学校現場と連携を取った教員養成・教員研修を行います。

4 研究しながら教員免許状等の資格取得が可能

大学院での研究をしながら、学類の科目を履修することができます(半期で大学院の受講科目と合わせて 24 単位まで)。これにより学士課程で取得できなかった必要な教員免許状などの資格を取得することが可能です。(臨床心理領域をのぞく)

ただし、既取得単位や既取得免許状、学士課程の課程認定の種類などによって条件が異なり、また教育実習などに条件があるので、取得を希望する場合は、あらかじめ問い合わせをしてください。

5 多様な修了研究形式

修了研究の形式を修士論文以外に修了演奏や修了制作、プロジェクト研究も選択することができます。学生は、自らの興味関心や将来の進路の希望に即して、修了研究の形式を選択し、研究指導教員の指導のもとで、修士レベルの研究を計画的に進めていきます。(各領域により異なります)

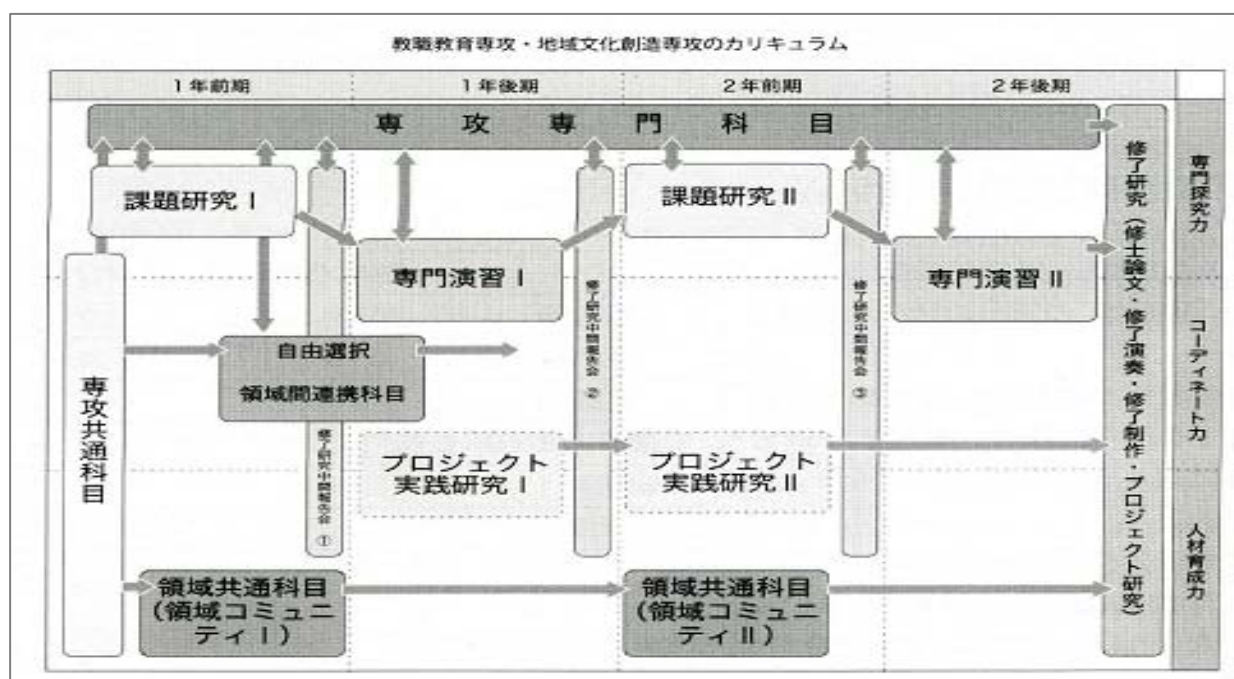
6 複数指導教員による多面的指導

修了研究は主指導教員と副指導教員の複数指導体制で研究を進めます。両者は、学生の研究テーマに即したより有効な研究方法や指導方法について学生と話し合い、研究のまとめまでを一貫して指導を進めていきます。(教職教育専攻、地域文化創造専攻のみ)

7 現職のまま学べる多様な履修形態

学校臨床心理専攻では、現職に就いたまま学ぶことができるよう、昼夜開講制やサテライト教室でのテレビ会議システムを利用した授業を導入し、また、長期履修制度による4年までの長期履修に対応しています。

(出典：人間発達文化研究科パンフレット)



(出典：人間発達文化研究科学習案内
(平成 21 年度入学用))

資料 1-1-15 地域政策科学研究科の一年修了型カリキュラム

◆但し、一年修了型の履修基準は下表のとおりとする。

区分	基準	分類	修了要件単位数
必修	履修分野の演習Ⅰ-Ⅱ	必修	4
	副演習Ⅰ-Ⅱ	必修	4
	特定課題研究	必修	6
基盤科目	基礎的な科目群から1科目以上	選択必修・自由	2
選択必修	履修分野の授業科目から1科目	選択必修	2
応用科目	応用的な科目群から1科目以上	選択必修・自由	2
	(特定課題研究報告書提出のため)	(必修)	(4)
自由科目	その他すべてから5科目以上	自由	10
計			30+(4)

【一年修了型の特例事項】

- ①副演習のⅠ、Ⅱで、演習Ⅲ、Ⅳに替える。学位論文は特定課題研究で替える。
- ②特定課題研究の報告書等の提出には、応用科目の修了要件として必要な2単位とは別に、応用科目4単位分の受講を前提とする。この4単位分は修了要件の単位数には含めることができない。

(出典：地域政策科学研究科学習案内(平成21年度入学用))

資料 1-2-1 各学群・学類ごとのアドミッション・ポリシー(案)(抜粋)

人文社会学群

人間発達文化学類

◆一般入試

【求める学生像】

人間発達文化学類では、教員をはじめ地域や企業などで活躍できる広義の教育者(人間発達支援者)を養成しています。人間発達支援者には、人間に対する理解だけでなく、高校で学ぶ人文科学や社会科学、数理科学、芸術、スポーツなどの広い知識が必要です。高校時代から、教育問題や子ども問題、社会問題に関心を持ち、得意分野および基礎的な学力を身につけており、新たな知識や技術を身につけることのできる学生を求めます。

〔人間発達専攻〕人間発達専攻では、人間発達の筋道や多様性を、教育学、心理学、教科教育、教科の内容に関する科学等の視点から総合的、立体的に学びます。本専攻は、教育の現実や歴史に対する知見や、確かな心理学的知見、乳幼児期から生涯にわたる人間の発達、特別な教育的ニーズ等に強い関心があり、将来、関連分野で子どもたちを支援する職業等につきたいと考えている学生を求めます。

〔文化探究専攻〕文化探究専攻では、人間の発達にかかわる言語文化、地域文化、生活科学、数理科学などを相互に関連させて学びます。本専攻では、それぞれの学問内容を深めるとともに、領域相互の関連性や応用性を追求し、その成果を社会の中で生かしていこうとする学生を求めます。

〔スポーツ・芸術創造専攻〕スポーツ芸術創造専攻では、人間の発達にかかわるスポーツや音楽、美術などの文化について実践的、総合的に学びます。本専攻では、スポーツや芸術の分野において広く活躍する専門家を育成することをめざして、これらの分野に強い関心を持ち、高い技能と深い探求心をもつ学生を求めます。

行政政策学類

◆一般入試

【求める学生像】

行政政策学類は、21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出す意欲を持ち、そのために必要な知識と能力の修得を目指す学生を受け入れます。

経済経営学類

◆一般入試

【求める学生像】

現代社会で起こっている様々な問題に関心を持ち、それらを経済・経営の視点でとらえる能力をもつことによって、社会での実践力を養いたいと考える学生を受け入れます。

理工学群

共生システム理工学類

【求める学生像】

人間について知りたい、ものづくりや経営に興味がある、自然や環境を調べたい、の少なくともどれか一つに当てはまり、人間社会が抱える問題にも関心がある皆さんの入学を歓迎します。本学類での学習は、高校までの数学・理科を基礎に発展させますが、変化を続ける人間社会とその課題を理解する力も必要です。そのため、この学類への入学と勉学に強い意欲を持つ人を対象に、本学で学ぶために必要な基礎学力、柔軟な思考力、分析・観察力を評価し、入学者を選抜します。なお、入学の1年後には専攻配属が行われますが、各専攻の教育は以下のような特色をもっています。

〔人間支援システム専攻〕

ヒト理解や人間支援又はそれらの基礎となる分野に強い関心があり、卒業後、人間支援技術分野で活躍したいと考えている人、特に、心理学や生理学などの生体システム科学、情報工学や機械・電気・電子工学などを基礎とする人間支援の技術開発に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっているヒト理解と人間支援に必要な基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

〔産業システム工学専攻〕

ものづくりが好きで企業経営にも強い関心があり、卒業後、製造業、起業家、弁理士などの産業支援分野で活躍したいと考えている人、特に、化学工学、材料工学などを基礎とする環境負荷の少ないものづくり技術や、情報工学、経営工学などの数理科学、およびそれらを基礎とする省資源・循環型社会システムの構築に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっているものづくりに必要な基礎・専門科目と産業社会システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

〔環境システムマネジメント専攻〕

水資源などを中心とした自然資源の確保・保全に強い関心があり、卒業後、環境管理者、環境計量士、公害防止者として活躍したいと考えている人、環境分析化学、浄化工学、生態学や地域計画、流域管理計画などを基礎とする環境システムの学習に強い関心と意欲のある人を求めます。

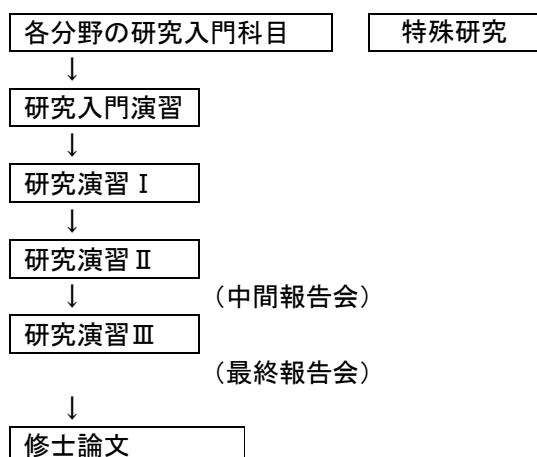
この専攻では、他大学では複数学科にまたがっている環境の科学と保全・管理に必要な環境システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

(出典：各学類資料(抜粋))

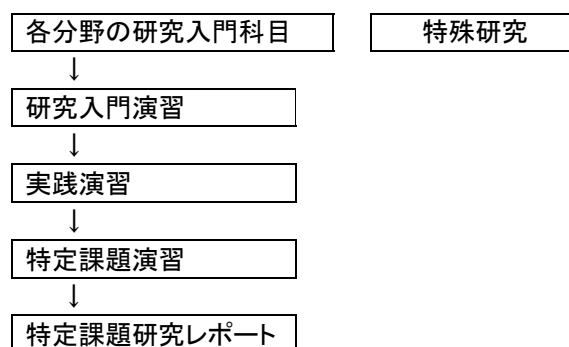
資料1-2-2 経済学研究科 実務家・特定課題研究履修モデル

大学院修士課程を修了するためには、研究指導教員の指導のもと修士学位論文の作成が必要となるが、研究指導教員の指導により、「修士学位論文」に代え、専門的処理、フィールドワークによる調査研究又は事例的研究の「特定課題研究」を選択することができる。

●修士論文研究モデル



●実務家・特定課題研究モデル



(出典：評価室)

福島大学大学院 共生システム理工学研究科

研究プロジェクト型博士後期課程、2010年4月始動！

共生システム理工学研究科は、「共生」のシステム科学のもとに持続循環型社会をめざし、21世紀の課題解決に向けた研究能力を有する高度専門技術者・研修者の養成を目的としています。「共生機械システム」「産業共生システム」「環境共生システム」の3領域を設け、他大学教員、企業・行政等の研究者や実務家とともに実践的・具体的なプロジェクト研究に取り組むことをとおして研究能力の涵養をはかります。

◎研究プロジェクトだからできること

研究内容が複合的視点から議論され、自らのテーマの位置付けが理解でき、システム科学的視点がより強化される。

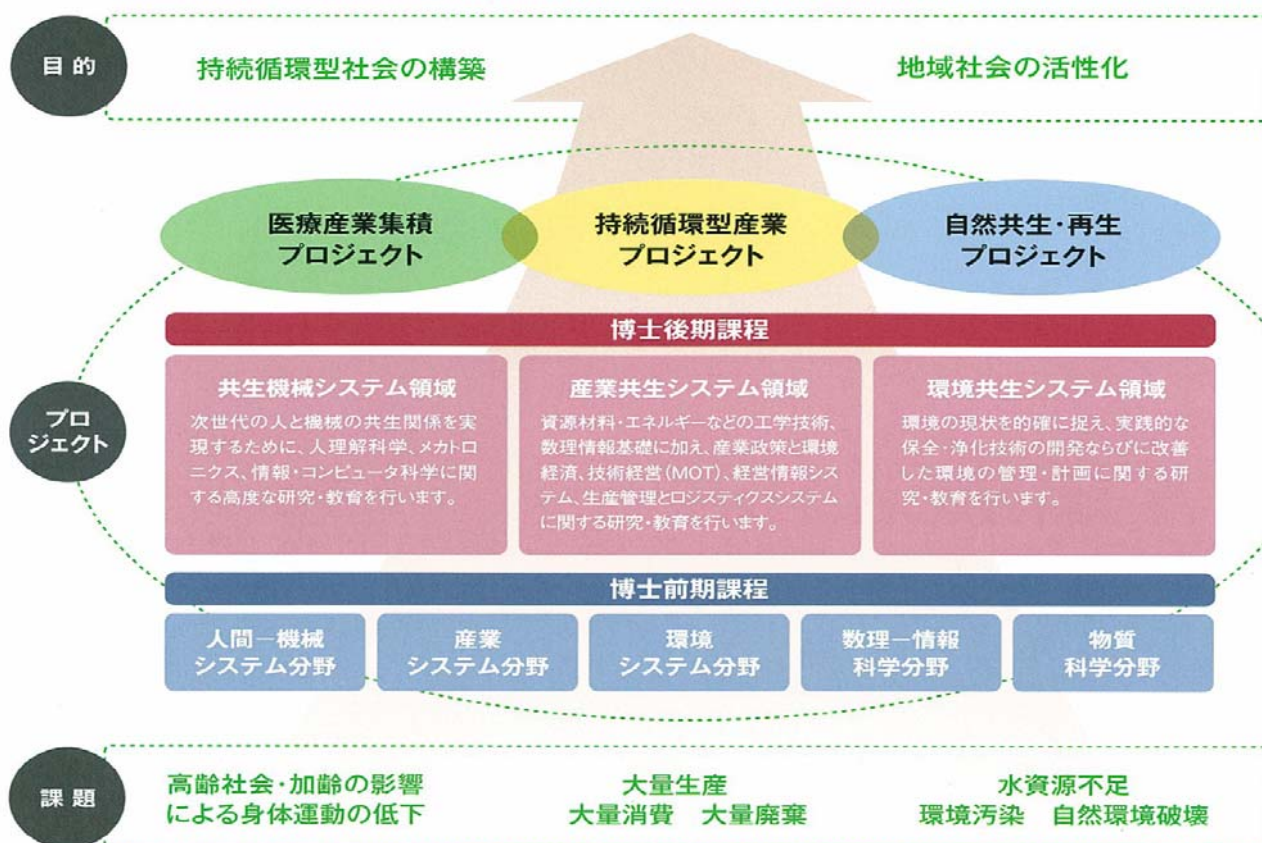
実務家の参加によって、研究内容の具体性、実践性が確保できる。

研究会推進の具体的経験を積むことで、プロジェクト・マネジメントの方法を学習できる。

研究プロジェクト型博士後期課程の特色

従来の博士後期課程で問題とされた具体性、実践性、研究能力の幅の広さを涵養するため、研究プロジェクト型指導体制を導入しました。本研究科では、共生システム理工学類・大学院研究科博士前期課程での研究プロジェクトの実績を踏まえて、本学教員ばかりでなく他大学教員、企業・自治体研究機関を含めた多様な研究者・実務家をプロジェクトメンバーとして、連携協力して研究を進めることで実践的・具体的な研究を展開します。大学院生は自らの研究テーマと関連した研究プロジェクトに参画し、プロジェクトメンバー等から助言指導を受けるとともに、プロジェクト内の他の研究を理解し、自らの研究テーマとの関連性を深めながら研究を進めていきます。

共生システム理工学研究科博士後期課程の概要



◎主な研究テーマ

共生機械システム領域

人間共存型ロボットとメカトロニクス応用／ヒト理解に基づくヒューマンインターフェイス／制御理論とその応用／先進材料システムの開発と力学的評価／物性物理学を基盤とした複雑系科学の解明と応用／睡眠調節の神経機構／眠りの不思議／動物の記憶・学習機能

産業共生システム領域

環境調和材料の創製／再生可能な生物資源を用いた機能性材料／再生可能エネルギーの分子化学／産業用微生物及び酵素／タンパク質モデルの合成／超微量物質の分析システム／エネルギーシステム工学と流体工学／製造プロセス工学／非加法的尺度とその応用／グラフ描画アルゴリズム／サプライチェーンマネジメント／生産・物流・経営のシステムモデリング／生産システムの最適化／知的管理情報システム

環境共生システム領域

地球環境モニタリング・モデリング／環境計画へのシステムズ・アプローチ／地域再生とコンパクトシティ／サウンドスケープ・デザイン／バイオ・エコシステムを活用した流域管理／昆虫の形態・機能・種多様性／大気微量成分の環境微生物／メソスケール大気循環／地下水資源の評価／気候変動と水・土砂災害／大規模爆発的火山噴火の将来予測

(出典：共生システム理工学研究科パンフレット)



(出典：福大生の学習ガイドブック
学びのナビ 2009)

福大生の学習ガイドブック 目次

はじめに	1
1. 大学生になった皆さんへ・・・ガイドブックのコンセプト	2
2. ふたりの教員からのメッセージ	7
(その1)「3つのH」	
(その2) 大学生活を送るに当たって「大切にしてほしいこと」	
3. 誰もが抱く新入生の疑問に答えます	12
・・・大学生活のなかにあるさまざまな「Q & A」	20
4. 学習スキルについて	26
I 「学習スキル」編のコンセプト	
II 学習スキルを身に付ける意義	
4-1 学習スキル基礎編(1年生向け)	29
(1) 履修・単位取得・科目選択と履修登録など	
(2) 予習と復習	
(3) 授業理解	
(4) ノートの取り方	
(5) 図書館利用	
(6) リポート・レジュメの書き方	
(7) インターネット利用	
(8) 試験と試験対策	
4-2 学習スキル上級編	38
(1) 学習を記録に残す	
(2) 考えること、その「4段階のレベル」	
(3) KJ法	
(4) クリティカル・シンキング(批判的思考)について	
(5) ロジカル・シンキング(論理的思考)について	
(6) マインドマップ	
(7) 質問すること	
(8) リポートの書き方	
(付録) 論文・リポート引用のルール(「注」のつけ方)	
5. 大学で使われる専門用語の解説	69
6. 学習ポートフォリオ記入のために	77

付録 ～図書館の達人は学びの達人～

『学びのナビ(仮称)福大生の 学習ガイド』による教養演習Ⅰ ～学生の感想を中心に～

人間発達文化学類 教授
鶴 巻 正 子

教養演習Ⅰを担当するのは3回目です。昨年度は他大学で開発されたガイドブックを使用しました。レポート作成やノートの取り方など分かりやすいものでしたが、当然ながら「福島大学」については書かれていません。図書館や総合情報処理センターの活用法、各支援Gの説明は、「テキストでは～であるが、福大では～である」というスタイルで進めることが多く、福大のガイドブックが欲しいと思っておりました。福島大学FDプロジェクト・ガイドブック編集チームから2008年度版(試作品)として『学びのナビ(仮称)福大生の学習ガイド』が発行されましたので、今年度はさっそく使用しています。ようやく2か月が過ぎたところですが、本稿では学生の様子や感想を紹介します。

まず、大学生と高校生の違いは何かについて「大学生になった君たちへ、教員メッセージ、大学でのQ & A」にそって講義形式で進めました。

その後、試験やレポート作成を念頭にKJ法を説明し、身近な話題である「大学生協の売り上げをあげるには」をテーマに4～6人のグループで検討し、発表資料を作成しました。生協職員2人を交えた意見交換会も活発でした(時間を割いてくださったおふたりに心より感謝です!)。この演習のあと「多動傾向の幼児を支援する保育士が配慮すべきこと」をテーマに、4人グループでKJ法により検討しました。1年生には難しい課題でしたが「支援法」「地域や家庭との連携」「指導者の心構えや資質」など本質的な観点に気づくことができ、数多くの意見が出されました。

学生からは「大学では教科書を覚えるのではなく、自分で調べて考えなければならないことに気づいた」「どう考えたらいいいのか分からなかったがKJ法がヒントになると思う」「一人暮らしで感じていた疑問に、先輩からのアドバイスが掲載されていて役立った」という感想とともに、「文章が続くと読みにくい」「具体例が欲しい」などの意見も出されました。

『学びのナビ』は福島大学の実態に即した学習ガイドですので、学生が折にふれ活用できるようにさらに内容を紹介していくとともに、まだ実施していない学習ポートフォリオを活用したいと思っています。

資料 1-2-5 上級生による下級生への学習支援体制

●各学類の上級生団体について

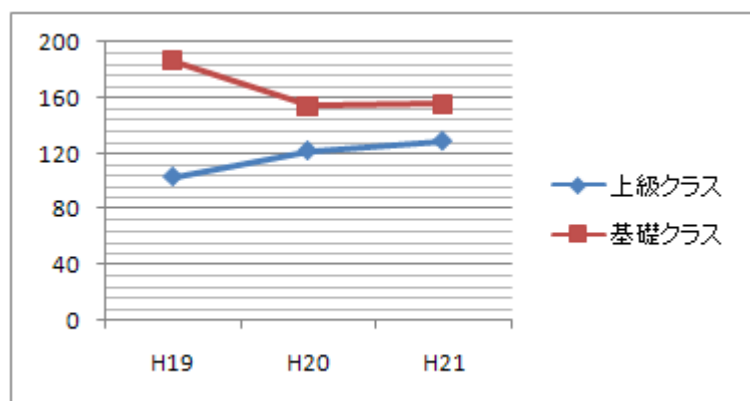
学類	団体名称	構成主体	活動内容	活動時期
人間発達文化学類	オリター	人間発達文化学類の2年生 ・自治会(人間発達文化学類学生会)とは異なる)	新入生研修のチューター業務のみ	新入生研修時のみ (4月～)
行政政策学類	シニター	行政政策学類2年生	新入生合宿ガイダンス(宿泊研修)の企画・運営および大学生活に対するガイダンス	主に新入生合宿時 (11月～4月)
経済経営学類	S-CUBE (エスキューブ)	経済経営学類の2年生 ・自治会(経済経営学類信陵会総務委員会)の構成員が主体	新入生サポート冊子作成、歓迎会などの企画	主に入学時期 (4月～)
共生システム理工学類	Rink (リンク)	自治会の希望者と一般学生から募集	新入生や上下学年の繋がりをサポートするべく、活動を行う。	4月 新入生歓迎、ガイダンス 8月 オープンキャンパス 10月 大学祭
現代教養コース	ライフサポーター	2年生の学生	新入生合宿ガイダンス(宿泊研修)の企画・運営	新入生合宿時のみ (11月～4月)

(出典：評価室)

資料 1-2-6 能力別クラスの受講状況

●「英語A・B」能力別クラス受講者数

	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
上級クラス	22	81	103	42	80	122	41	88	129
基礎クラス	71	115	186	61	93	154	74	81	155
計	93	196	289	103	173	276	115	169	284



(出典：評価室)

資料 1-2-7 学術振興基金による英語検定受講料補助

●福島大学学術振興基金事業要領（抜粋）

4. 学術振興に関する特別事業 (1) 学生・教育助成 助成要件：①学生が本学で開催する学術的集会補助 ②その他学術・教育活動（調査・実習・受験料）等の補助 ③協定校への学生留学に関わる航空費補助 助成予算：総額 200 万円

(出典：福島大学学術振興基金事業要領)

資料1-2-8 学習ポートフォリオ



はじめに

ポートフォリオとは、本来、学習の記録を冊子のような形式に綴じ込んだものを言いますが、ここで言う「学習ポートフォリオ」とは、年度ないしsemester単位で、みなさんが自己の学習の目標を書き入れ、それを振り返るシートのことを指しています。

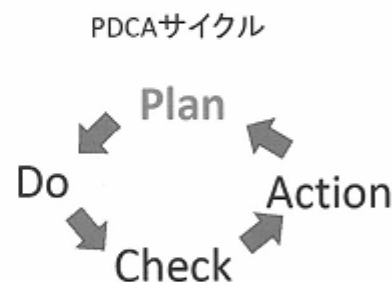
みなさんは、入学後、高校までとは異なる自己決定の学習スタイルをはじめることになりますが、ややもすると、流れにまかせて安易にカリキュラムを組み、ただ授業を聞いて単位を取り学習を終えるという効果の少ない学習スタイルになりかねません。これでは大学生にふさわしい学習スタイルとは言えません。

学習とは、基本的に、学習者自身が自己の目標を定め、その目標に沿って、学習者同士や自らが切磋琢磨して、その結果獲得した学習成果を自己評価し、改善していく一連の過程のことを言います。それは、自己学習力を伸ばす学習スタイルといえることができます。その学習スタイルをつくり出すための手助けをするのが「学習ポートフォリオ」です。

学習ポートフォリオでは、みなさん一人ひとりが、自分の学習の歩みを振り返り、現在の到達状況を確認して、次に取り組むべき課題を明らかにしていくことをねらっています。

この学習ポートフォリオは、みなさんの能動的な学習と行動を次のようなPDCAサイクルで実現できるよう支援するものです。

- < Plan > みなさん自身による目標の設定
- < Do > 目標を達成させるための学習活動プロセスを記録
- < Check > 集積した記録を基に自己評価することで目標への達成度を評価
- < Action > 次の改善を図る活動計画を作成し実行



みなさんは、授業や授業外の学習、学生生活全般から得た知識や体験・創出した知恵を、みなさん自身で文書化し、行動履歴として学習ポートフォリオに蓄積管理します。その蓄積した情報を基に、アドバイザー教員と定期的な確認（回顧・展望）を行い、自己の学習プロセスの成果や態度の評価・改善を図り、自己実現目標をキャリアデザインとして描くことができるようにしていきます。

学習ポートフォリオは、semesterごとに学習計画と成果を記入し、それを繰り返すことを通じて、学習の質を高め、卒業時に身につけるべき学士としての力を養っていきましょう。

学習ポートフォリオは、すべての学類生が記入します。記入したあと、アドバイザー教員と面談を行ってください。そうすることでより確かな気づきが得られるでしょう。

この学習ポートフォリオは4年間使います。再配布はしません。紛失しないように注意してください。

<構成>

■学習ポートフォリオの書き方

■学習ポートフォリオ1 <自己分析・自己評価シート>

- (1) 自分史年表
- (2) 自分の長所、短所、対人関係
- (3) 将来の夢や構想（キャリアデザイン）を箇条書きに
- (4) 上で描いた夢や構想を実現するためには、どんな学びの構想を立てたり、能力の開発や資格取得の学習をしなければならないか
- (5) 自己評価

■学習ポートフォリオ2 <大学4年間の目標>

- (1) 福島大学入学の動機
- (2) 将来の目標（自分のやりたいこと、希望する就職先等）
- (3) 取得したい免許・資格・検定試験等
- (4) 大学4年間における学習目標
- (5) 大学4年間における学習以外の目標

■学習ポートフォリオ3 <各semesterの目標、自己評価>

■学習ポートフォリオ4 <卒業時のふり振り返り>

- (1) 在学中における学習目標の達成度
- (2) 在学中における学習以外の目標の達成度や成果
- (3) 総評

■学習ポートフォリオ2 <大学4年間の目標>

(1) 福島大学入学の動機 記入日 (. . .)

(2) 将来の目標（自分のやりたいこと、希望する就職先等）

(3) 取得したい免許・資格・検定試験等

(4) 大学4年間における学習目標

(5) 大学4年間における学習以外の目標

（出典：人間発達文化学類「学習ポートフォリオ」）

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(出典：平成 20 年 6 月 21 日福島民友新聞掲載)

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

(出典：平成 20 年 11 月 30 日福島民友新聞掲載)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(出典：平成 21 年 12 月 9 日「福島民報」)

資料1-2-10 成績不良者への早期警告措置

早期警告措置について

経済経営学類では学生が計画的に学習を進め卒業要件を確実に満たすことができるよう促すために、成績不良の学生に対して以下のような早期警告措置を行います。

- ・ 第2 Semesterの成績交付時点で、取得卒業要件単位が 20 単位未満、又は GPA2.0 未満の学生に対しては、アドバイザー教員に修学状況を通知します。
- ・ 第4 Semesterの成績交付時点で、取得卒業要件単位が 40 単位未満、又は GPA2.0 未満の学生に対しては、アドバイザー教員が履修指導を行います。
- ・ さらに第6 Semesterの成績交付時点で、取得卒業要件単位が 80 単位未満、又は GPA2.0 未満の学生に対しては、アドバイザー教員、教務委員が早期退学勧告を含む厳格な履修指導を行います。

(出典：経済経営学類学習案内（平成 21 年度）)

資料1-3-1 FD活動

●FD・SDジョイントセミナー

第1回 人にウケる極意～落語に学ぶ～
日時：21年7月13日（月）15:00～
場所：総合教育研究センター 特別教室
講師：落語家 三遊亭楽生 師匠
概要：話のプロである落語家が、学生の心に届く話し方・伝え方を伝授！おまけに落語あり！！
講師紹介：円楽一門会所属。三遊亭楽太郎の一番弟子。本格的な古典落語を演じ、声量の豊かさやメリハリのある話し方が特徴。

第2回 話の勘所をつかむ
日時・場所：未定（10月予定 詳細は9月に公表）
講師：福島中央テレビ 中川 久美 氏
概要：メリハリのある話し方を身につける。
講師紹介：FCT「ゴジテレシタル」のメインキャスターを13年務める。平成9年、全国日本テレビ系列の「NNSアナウンス大賞」を受賞。

第3回 「相手の聞きたいこと」を話せ！
日時：21年12月2日（水）15:00～
場所：S棟講義室（予定）
講師：東京工芸大学芸術学部准教授 大島 武 氏
概要：伝授するコミュニケーションの極意で、授業は超面白い！！
講師紹介：平成15年全国大学実務教育協会主催の教員の「授業力」を競うコンテストで「最優秀賞」を受賞。父は映画監督の大島渚氏。
著書『プレゼンテーションマインド「相手の聞きたいこと」を話せ！』マキ出版 2006年

未来へつながる話の世界をのぞく

主催：福島大学総合教育研究センターFD部門、人材養成プロジェクト企画室
共催：FDプロジェクト
問い合わせ先：総合教育研究センター事務局
電話：024-548-6110 FAX：024-548-6631
URL：http://www.educ.fukushima-u.ac.jp/npd/
※各セミナー先着 50名まで 前日までに、事前申し込みが必要（総合教育研究センター事務局まで）

開催日			セミナータイトル	講師
二十年度	第1回	H21.1.23	心にひびく言葉 心をひらく学び CHANGE！！	東京工芸大学准教授
	第2回	H21.2.27	伝わる話し方～話し方講座	福島テレビ元アナウンサー
	第3回	H21.3.13	伝わる授業づくり～小道具の活用と教材づくり～	福島大学附属中学校教諭
二十一年度	第1回	H21.7.13	人にウケる極意～落語に学ぶ～	落語家
	第2回	H21.11.24	話の勘所をつかむ	福島中央テレビアナウンサー
	第3回	H21.12.2	「相手の聞きたいこと」を話せ！	東京工芸大学准教授

(出典：「平成 21 年度福島大学FDプロジェクト活動報告書」、評価室)

FD・SDジョイントセミナーアンケート結果（抜粋）

	回	感 想	参加者
平成二十年度	第1回	授業評価アンケートとともに、今後の授業計画・内容構成に活かしたい。	約30人
		基本的なプレゼンテーションテクニックを確認することができた。	
		授業を受ける立場として大変わかりやすく、学習関心が持続する授業を体験できたことを、今後に活かしていきたい。	
		普段感じていたことを理論的に整理してお話ししてくださった。	
		具体例の紹介が豊富であり楽しい内容なので、飽きることのない講演だった。	
		プレゼンテーションの意味を良く捉えられて、参考になった。	
		FDに関心を持つ教員の意識改革を高めることの必要性を感じた。	
		日頃、授業において無意識に行っていた事柄について、反省することができた。	
		今日の講演自体が、「良い授業」の見本だった。	
	第2回	目を見て話すことの大切さを、体験を通して実感できた。	約30人
		「コミュニケーションは思いを伝える」という言葉は、本当にそうだったと思った。	
		窓口で対応する時、目を見て話す重要さを常に意識していきたい。	
		教員と職員が同時に参加できるのは良い。	
		参考になることが多く大変満足した。	
		初めて聞く話が多く、かつ楽しい内容であった。	
	第3回	具体的な授業実践例とその際に用いる教材について、自分自身の授業づくりに大変参考になった。	約20人
		生徒の思考力や理解力を深めるために、日々教材研究をされていることに感銘した。	
		大学でも、ただ知識を一方的に与えるだけでなく、まだまだ工夫できると思った。	
		教材開発に向けた努力、労力、生徒の創造性を育むための尽力に頭が下がった。	
		人に物事を伝えるために、いろいろ考えられていて、素晴らしいと思った。	
平成二十一年度	第1回	声、言葉で仕事をしているプロフェッショナルの落語家ならではの言葉に、力を感じた。	49人
		話し方の技術や習得のためのコツなど、とてもためになった。	
		いつか自分も授業を録画してチェックしてみようと思った。	
		自分の授業を振り返る機会になった。	
		伝わなければどんな良い講義でもダメだとわかった。	
	第2回	素晴らしい講演で、学生に話すコツが理解できたような気がする。	26人
		話すスピード、強弱、言葉のきれいさ、本当にこのように話せればと感じた。	
		メリハリのある話し方について、その一端を感じることができた。	
		相手に伝えたいという気持ちを常に持ち、強弱をつけて話すことの重要性を感じた。	
		悪い例のVTRを見て、自分もよくこんな感じで話していると分かった。	
	第3回	伝わる話し方、メリハリのある話し方について、実践的に教えていただき、大変分かりやすかった。	23人
		伝え方の工夫について、ヒントを頂けた。	
		いろいろ気がつかされるお話で、とても時間が短く感じられた。	
		授業で思い当たる点が多々あり、今後、意識していかなければならないと痛感した。	
		コミュニケーションについて、心理的な視点から説明していただき、おもしろかった。	
	第3回	ちょっと授業を工夫してみようかと思った。	
		とても具体的な気づきがたくさんあったので、明日からの授業に活かしたいと思った。	
		先生の話し方、間の取り方等は、自分の授業で参考になった。	
		「楽しい＝聞きやすい」から、時間が長く感じなかった。	

※参加者には、県内高等教育機関からの参加者も含む。

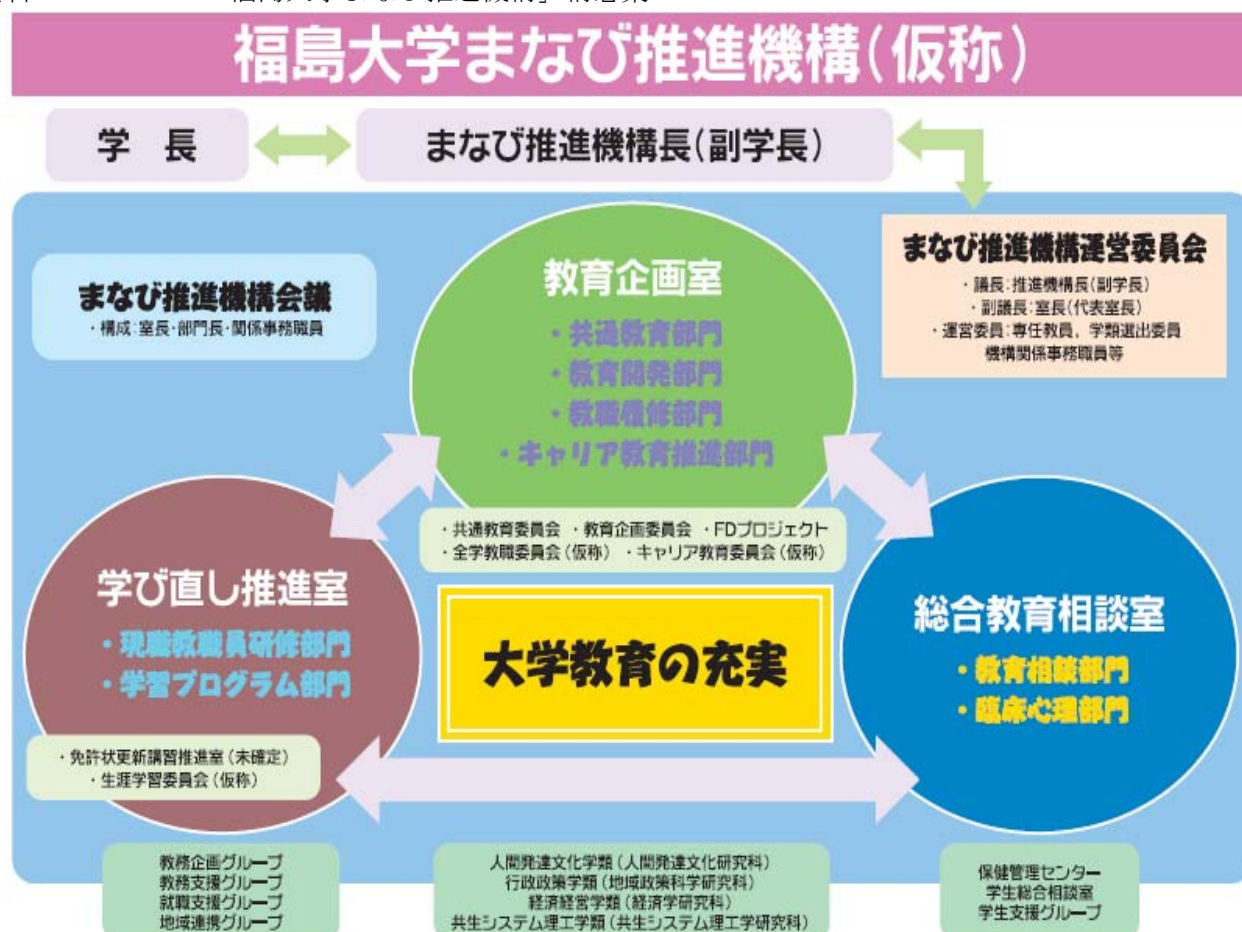
（出典：評価室）

●FD企画（平成20年度・平成21年度）

- ・FDワークショップ 授業公開&検討会
- ・新任教員FD研修
- ・FD研修・学習会
- ・FD・SDジョイントセミナー
- ・FD宿泊研修会
- ・教育改善のための学生アンケート
- ・学習ガイドブックWG活動
- ・他大学FD研修参加（「活動報告書」において報告）

（出典：評価室）

資料 1－3－2 「福島大学まなび推進機構」構想案



(出典: 総合教育研究センターニューズレター「しのぶそう」No. 27・28 合併号)

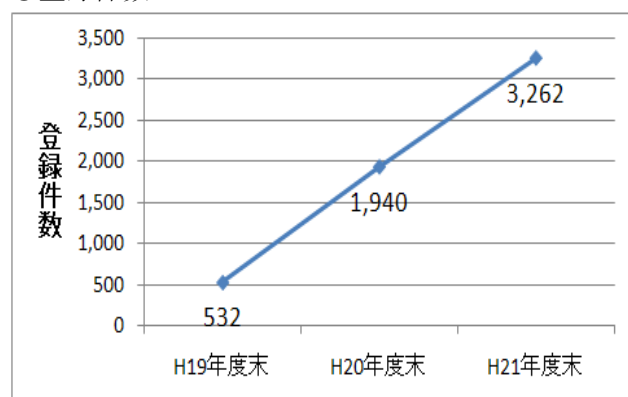
資料 1－3－3 福島県立図書館との「相互協力に関する協定」

この部分は著作権の関係で掲載できません。

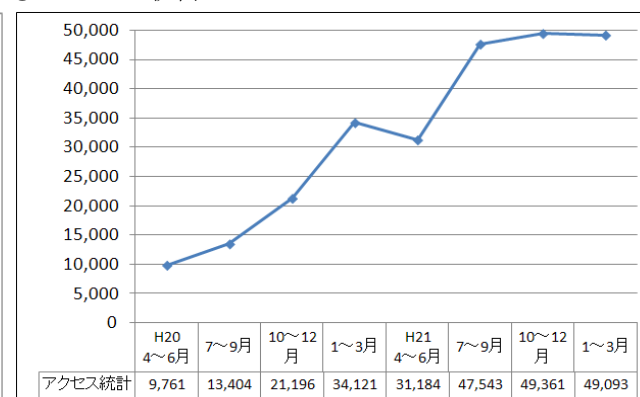
(出典: 平成 21 年 4 月 22 日「朝日新聞」)

資料 1-3-4 「福島大学学術機関リポジトリ」の登録件数・アクセス統計

●登録件数



●アクセス統計



(出典：附属図書館)

資料 1-3-5 人間発達文化研究科における研究サポート

●「領域共通科目（領域コミュニティⅠ）」シラバスの例

【開講年度】	2009 年度 (大学院)
【科目】	地域生活文化コミュニティⅠ
【担当教員】	千葉桂子
【授業概要とねらい】	地域生活文化領域の学生がともに、研究について共同的「実践コミュニティ」の構築をめざす。この授業では、まず自らの研究に取り組むにあたり、領域の特性を押さえながら研究テーマの構想、研究方法について、お互いの取り組みを発表し合う。それに対して自らの研究の見通しを確認する。担当教員のコーディネートのもとで、各自の研究課題に対する論点の押さえ方やアプローチについて学び、ディスカッションを実践することにより、自己表現の方法についても学ぶ。(隔週開講)
【望ましい水準】	1. 研究テーマについて関連分野の現状や背景等を視野に入れて、客観的に把握することができる。 2. 自らの研究テーマの構想、研究方法に関する整理を行い、他者に対してわかりやすく発表する工夫ができる。 3. ディスカッションにおいて積極的な態度で臨むことができる。
【授業計画】	第1回：地域生活文化領域におけるオリエンテーションおよび研究計画の立案 オリエンテーションと各自の研究計画の立て方について助言する。 第2回：研究構想の報告およびディスカッション（1）問題意識について 各自の問題意識について発表し、ディスカッションする。 第3回：研究構想の報告およびディスカッション（2）問題意識の背景について 各自の問題意識の背景について認識を深め、ディスカッションする。 第4回：中間のまとめ これまでのディスカッションを踏まえながら、まとめの構成を検討する。 第5回：研究構想の報告およびディスカッション（3）地域との関連について 研究テーマと地域との関連性について問い直し、ディスカッションする。 第6回：研究構想の報告およびディスカッション（4）各自の構想案について 各自の構想案について報告し、ディスカッションする。 第7回：今後の研究課題についてディスカッション 各自の研究課題について報告し、ディスカッションを通して見通しを得る。 第8回：全体のまとめ 各自の研究課題についてまとめ、今後の方向性を確認し合う。
【教材・教科書】	使用しない。必要に応じて資料を選定し、配布する。
【参考図書】	必要に応じて紹介する。
【参考URL】	
【授業以外の学習】	幅広く、先行研究・関連研究の文献を収集し、読み込む。また、専門分野の研究動向についての情報収集も入念に行うこと。
【成績評価の方法】	授業の準備と授業内の発表状況、提出したレポートの内容によって総合的に評価する。ただし8回のうち4回以上欠席した場合には、評価しない。
【成績評価の基準】	望ましい水準のすべてにおいて達していれば、優が与えられる。 望ましい水準の2分の1以上に達していれば、良が与えられる。 望ましい水準の3分の1以上に達していれば、可が与えられる。
【オフィスアワー】	月曜日 16:20~17:50 事前にメールで連絡をすること。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	〇〇〇@educ.fukushima-u.ac.jp
【留意点・注意事項】	事前に欠席することがわかっている場合には連絡をすること。また不測の場合にも速やかに連絡すること。

●「領域コミュニティⅠ」実施報告書（抜粋）

2009 年度人間発達文化研究科「領域コミュニティⅠ」実施報告書

教育課程委員会

2009 年度 4 月に開設された人間発達文化研究科においては、学生が相互に実践・研究を交流させ、学生同士の研究発表等を行うことにより学びのコミュニティを形成することを目的として、各専攻の領域（全 7 領域）ごとに「領域コミュニティⅠ」が実施された。そこで教育課程委員会では、各領域の担当者を対象に実施状況について調査を行い、その学習効果について把握したので、報告する。また【資料】として、各領域からの回答を添付する。

1. 調査の概要

調査対象：各領域における「領域コミュニティⅠ」担当教員

調査期間：2009 年 11 月 18 日～30 日

2. 結果の概要

①参加者について（本授業に参加した学生・教員について）

人間発達文化研究科は今年度開設のため、1 年生しか在籍していない。そのため本授業科目の履修者は 1 年生しかいない。しかし 4 つの領域において、教育学研究科の 2 年生が参加していたことがわかった。また、教員については 1 つの領域で担当者以外に 1 名の参加があった。その他の領域でも、学生の報告の準備等、参加に準じた対応がされていたようである。また、他大学の大学院生との交流も行われていることがわかった。

②実施状況について（全 8 回の実施日と主な内容）

領域ごとに実施内容は若干異なるが、2 年生の参加があった領域においては主に全 8 回のうちの前半に研究構想についての報告が行われ、それを受けて 1 年生が自らの研究構想について報告し、ディスカッションを行うという内容が多くみられた。

また 1 年生のみが参加していた領域では、専門分野に関する文献購読及び報告などが行われていた。

③実施する上での問題点・課題や気づいたこと等

2 年生が参加していた領域の担当者からは、1 年生にとって 2 年生の研究の内容や進め方を具体的に聞くことができたことは、非常に有意義であったようだと言われていた。その一方で、2 年生にとっては 1 年生のために情報提供するのみにとどまったという回答もあった。また 1 年生のみ参加の領域においても学生の関心に共通性がみられ、現職教員とストレートマスターの関係がよくスムーズに授業を行うことができたと言われた。

以上のことから、研究科開設初年度であり 2 年生がいないという不十分な環境の中でも、それぞれの領域において 1 年生が主体的に研究をスタートさせるための実践的活動が効果的に行われていたといえる。同時に、学習目的にある学びのコミュニティがよく形成されていることが確認できた。

来年度も同様に前期に「領域コミュニティⅠ・Ⅱ」が実施される。完成年度となり、1・2 年生がそろえることにより有機的な連携が実現し、今年度よりもさらに充実した学びとなることが期待できる。

（出典：人間発達文化研究科）

資料 1-3-6 学術振興基金による大学院生の研究発表支援

H21.12.1 第 2 回 WG 会議資料
学術振興基金助成事業に係る仕分け表(案)

【単位：万円】

実施事業	現行助成額	学術振興基金	運営費交付金	参考：既定予算
学術振興特別事業	500	400	400	
学生・教育助成	200	※補足⑤ 200	400	CL 活性化 250
事務職員特別研修	150	100		
その他の特別助成	150	100		

⑤学術振興特別事業の学生・教育助成については、運営費交付金での既定予算であるキャンパスライフ活性化経費へ事業統合して既定予算を増額する。

また、共生システム理工大学院後期博士課程が設置を契機に、大学院修士課程と博士課程院生の研究活動を支援する公募型の学術振興基金支援事業を新設する。

※学会発表等旅費・参加費（東京 1泊 2日）、年 2 回分、助成額 10 万円/1 人

資料 1-3-7 人間発達文化研究科の特色あるカリキュラム

プロジェクト実践研究

地域文化創造専攻において、修了研究で「プロジェクト研究」を選択した者は、「プロジェクト実践研究」を履修しなければなりません。本授業は1年後期から2年前半までの1年間に渡って行われ、院生自身の地域貢献の実践を単位化するものです。研究指導教員の指導の下に、構想、事前指導、実践、事後研究、研究のまとめを一貫して行います。具体的には、地域活性化事業や文化活動への協力活動や企業・自治体等と連携した調査活動などが考えられ、職業経験との関連も期待されます。

研究拠点校における実践研究

本学の附属校園や公立学校の協力のもと、本研究科における研究拠点校として、相互に研究協力を行います。対応する授業は教職教育専攻における実践研究関連科目を中心に、必要に応じて「課題研究Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」などの授業とし、研究拠点校における研究を行い、より学校現場に即した研究や実践力の向上を目的とします。研究内容は、各校種における教科指導・道徳・特別活動等の授業研究、及び学級経営、学校経営などとし、可能な範囲内で校内研修会や研究協議会等への参加、また特別支援の指導、リソースルームなども含めます。実施形態は、各領域や研究拠点校によって異なりますので、担当教員に説明を受けてください。なお、研究拠点校における研究は、上記「教職専門性向上コースワーク」に含まれます。

教職専門性向上コースワーク

「福島の教員スタンダード」(後掲)に基づく「教職専門性向上コースワーク」を設定しています。「教員の自立と使命感」(2～4単位:教師教育特論、教育社会学関係)、「授業づくりと学びの創造」(4～10単位:教育方法論・各教科教育関係)、「児童生徒の理解と指導」(4単位:生活指導論関係、発達心理学関係)、「教職員の協働と学校づくり」(2～6単位:学校経営・社会教育学関係)を内容とし、「スクールリーダー・コースワーク」と「スーパーティーチャー・コースワーク」の二つのコースワークがあります。本コースワークを履修することにより、大学が独自に定めた「指導資格教員ライセンス」が与えられ、修了後も学校現場における研究をサポートするとともに、学士課程の教員養成に協力してもらいます。

領 域	授業科目名	リー ダー ス ク ル	ティ ー チャ ー ス ー パ ー
I 教員の自立と使命感	学校教育特論 日本教育史特論 教育社会学特論 幼児教育学特論	4	2
II 授業づくりと学びの創造	授業実践分析特論 道徳教育特論 認知教育方法特論 教育課程特論 障害児教育学特論Ⅰ 幼児教育内容特論 カリキュラム開発領域授業科目 教育内容関係科目	2	10 実践研究4 単位を含 む
III 児童生徒の理解と指導	乳幼児・小学生の心理学特論 幼児心理学特論 中学生・高校生の心理学特論 人間理解特論 児童・青年期精神医学特論Ⅰ 障害児心理学特論Ⅰ	4	4
IV 教職員の協働と学校づくり	学社連携教育学特論 学校経営特論 スクールリーダー特論 教師教育特論 比較教育特論	8 実践研究4 単位を含 む	2
計		18	18

(出典：人間発達文化研究科学習案内(平成21年度入学者用))

資料 1－4－1 学生生活実態調査結果に基づく改善

●平成 18 年度学生生活実態調査結果【抜粋】（公表 平成 19 年 10 月）

Q 6 6 [課外活動への支援の要望]

- ・サークル棟の改善（暖房・シャワー・ロッカー等）・改修・新設 26 件
- ・テニスコートの整備 5 件
- ・更衣室のロッカーの鍵 3 件
- ・その他 多数

（出典：「平成 18 年度学生生活実態調査報告書」）

●陸上競技場の照明設備増設

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

（出典：平成 21 年 7 月 16 日福島民友新聞掲載）

●体育系サークル棟改修概要（改修工期：平成 20 年 12 月～平成 21 年 3 月）

工事概要：建築、機械設備、電気設備

○建築

シャワールームをユニット化し、それぞれに脱衣スペースを設け個室化。（男子 3 ヲ所、女子 3 ヲ所）



○機械設備

暖房器具を、コンベクターから温風の出るコンベクターに変更。（タイマー制御により、消し忘れ防止）

トイレの和便器を、一部洗浄便座付洋便器に変更。

○電気設備

照明点灯方式を、人感センサーに変更。（廊下・階段・便所）

照明器具を、省エネの Hf インバータタイプに変更。

外壁既設照明器具を、LED 照明器具に変更。

1 階女子シャワー室に防犯用非常警報押しボタンを設置。

（出典：評価室）

資料 1－4－2 学生寮改修工事

●学寮改修工事に関する寮生との協議過程等一覧

年月日	会議/打合せ	参加者	内 容
20.12.15	寮長との打合せ	各寮長、事務職員	寮長と、改修工事に関する寮生との懇談会開催について相談。
21.01.08	〃	〃	寮生との学寮改修に関する意見交換会開催を決定。
21.01.19	〃	〃	意見交換会の日時を決定。
21.01.26	〃	〃	意見交換会の開催を確認。
21.01.30	学寮改修検討委員会	副学長、事務職員、技術職員	2月の役員会、3月の経営協議会を経た上で、学寮改修工事を行うことを決定。
21.02.02	寮長との打合せ	各寮長、事務職員	意見交換会の運営方法を確認。
21.02.12	学寮改修意見交換会	副学長、各寮長、事務職員	寮生から、学寮改修について、意見・要望を伺う。
21.05.11	寮長との打合せ	各寮長、事務職員	寮長から、改修工事に際し、浴室のシャワーの必要数、便所の大便器の必要数を聞く。
21.06.08	〃	〃	寮長へ、改修工事の概要を伝える。
21.07.22	学寮運営協議会	副学長、各寮長、事務職員、教員	改修工事の概要について、報告・了承。
21.08.24	寮長との打合せ	各寮長、事務職員	寮長と、工事中の仮設トイレ・シャワー室の設置場所等について協議。
21.10.26	〃	〃	寮長へ、改修業者決定等を伝える。
21.10.27	改修工事開始		
21.11.02	〃	〃	寮長へ、改修工事説明会開催について確認する。
21.11.11	学寮改修工事説明会	改修業者、寮生等	業者から、工事の概要、工程等の説明と質疑・応答。
21.11.16	寮長との打合せ	各寮長、事務職員	寮長と、工事に伴う寮生の作業等について協議。
21.11.30	〃	〃	寮長と、最終工程表を確認する。
22.02.17	改修工事終了		

(出典：評価室)

●学寮改修工事概要 改修工期：平成 21 年 9 月～平成 22 年 2 月

工事概要：建築、機械設備、電気設備

○建築

- ・学寮の共通部分（廊下、階段、便所、洗濯室、リビング、浴室）の改修。
- ・浴室は、ユニットシャワールームとし、それぞれに脱衣スペースを設け個室化。

○電気設備

- ・学寮の共通部分（便所、浴室、玄関）にLED照明器具+人感センサーを設置。
- ・その他共通部の照明器具・配線器具の取替、スピーカーの更新。

○機械設備

- ・学生寮の共通部分（便所、洗濯室、リビング、浴室）の改修。
- ・便所は、節水形大便器・人感式自動洗浄小便器及び節水型自動水栓を設置。また、洋式大便器は暖房付便座(女子寮はウォームレット、男子寮はウォッシュレット)を設置。
- ・リビングは消し忘れ・過熱防止等の安全装置の付いたガスコンロ台、小型ガス瞬間湯沸器の取替。
- ・浴室用の給湯については、FF型一酸化炭素濃度検出装置付ガス給湯機の取替。

【施工前】



【施工後】



(出典：評価室)

資料 1－4－3 「全員研修用教材DVD作成による回復力共有体験の検討」プロジェクト

平成20年度学長裁量経費「全員研修用教材DVD作成による回復力共有体験の検討 ～起き上がり小法師プロジェクト～」の概要

(1)目 的

本プロジェクトは、全員研修用の教材DVD制作過程を通し、①カウンセリングやピアサポートを必要とする学生の支援体制を検討する、②学生総合相談室の相談業務を質的・量的に向上させる、③予後良好学生や卒業生の経過を分析することを目的として推進する。

(2)期 間

平成20年10月1日 ～ 平成21年3月31日

(4)研究組織

- ・学務担当副学長
- ・学生生活委員会委員（教員）
- ・学生総合相談室カウンセラー
- ・学生支援グループ職員
- ・保健管理センター職員

(3)プロジェクト概要

- ①全員研修用教材DVDの作成
- ②カウンセリング体制の充実
- ③各種研修会の開催

（出典：「全員研修用教材DVD作成による回復力共有体験の検討」報告書 平成21年3月）

この部分は著作権の関係で掲載できません。

（出典：平成21年5月6日福島民友新聞掲載）

資料 2-1-1 プロジェクト研究所

●プロジェクト研究所一覧

研究所名	所長名	研究テーマ	設置日
資源循環・廃棄物マネジメント研究所	鈴木 浩教授 (共生システム理工学類)	廃棄物の排出、運搬、処理処分における資源化、減量化、情報化に関する研究	2008 年 12 月 1 日
権利擁護システム研究所	新村繁文教授 (行政政策学類)	いわゆる社会的弱者の権利擁護のための多様なシステム(成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情対応システム、虐待対応法制、施設内コンプライアンス、各署の権利擁護ネットワーク等々)の総合的研究、権利擁護にあたる支援者養成プログラム・カリキュラム・教材等の研究開発とその応用、地域ネットワーク構築・支援とそのセンター機能及びスーパーバイズ機能の研究	2009 年 2 月 1 日
地域ブランド戦略研究所	西川和明教授 (経済経営学類)	地域の特産品などの「モノ」、及び観光などの「サービス」を産官学の連携によって創出し、その知名度を高めるためのブランド化を図ることによって、その経済的価値を向上させ、地域経済の活性化に貢献する。	2009 年 3 月 1 日
芸術による地域創造研究所	渡邊晃一准教授 (人間発達文化学類)	芸術による文化活動を通じた街づくり・地域の活性化に関する実践的研究	2009 年 3 月 1 日
発達障害児早期支援研究所	松崎博文教授 (人間発達文化学類)	発達障害幼児及びその保護者に対する就学移行支援と地域連携を考える実践的・総合的研究	2009 年 6 月 1 日
小規模自治体研究所	松野光伸教授 (行政政策学類)	小規模自治体における「自律」と「協働」の地域づくり	2009 年 7 月 1 日

(出典：評価室)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

資料 2-1-2 人間・心理学系の研究成果

●人間・心理学系の研究業績一覧

- 生島 浩「新しい思春期像を示す非行少年の家族療法」精神療法 34 巻 2 号, 20-26, 2008.4
- 昼田源四郎、松崎博文、鶴巻正子「発達障害早期支援『つばさ教室』でのペアレント・トレーニング」福島大学総合教育研究センター紀要 第5号、17-24、2008.7
- 水野 薫「発達障害といじめに関する研究Ⅰ—保護者と担任教師の比較」福島大学心理臨床研究第3号 9-16 2008.7
- 佐藤 順子、渡辺 隆「学童保育における軽度発達障害のある子どもたちへの支援について—福島市における学童保育指導員への質問紙調査より—」福島大学心理臨床研究第3号 25-32 2008.7
- 中村 志寿佳、生島 浩「非行少年の家族支援に関する実証的研究」福島大学心理臨床研究, 第3号, 57-63, 2008.7
- 中野明德「発達障害が疑われる不登校児童生徒の実態—福島県における調査から—」福島大学総合教育研究センター紀要、第6号、9-16、2009.1
- 「発達障害といじめ(1)—保護者から見たいじめの実態と課題—」を日本教育心理学会第50回大会(2008.10.11)に報告、
- 「発達障害児をめぐるいじめ・いじめられの実態と課題」を日本特殊教育学会第46回大会(2008.9.20)に報告
- 発達障害が疑われる不登校児童生徒の実態について、福島県で調査した結果を日本精神衛生学会第24回大会(2008.11.9)に報告
- Takaya, R., Fukuda, K., Uehara, H., Kihara, H., Ishihara, K. 2009 Emergence of the circadian sleep-wake rhythm might depend on conception not on birth timing. Sleep and Biological Rhythms, 7, 59-65
- 飛田 操 印刷中 対人関係の崩壊 相川 充・高井次郎(編著) コミュニケーションと対人関係 展望現代の社会心理学 2 誠信書房 109-115.
- 小松はる佳・飛田操 印刷中 児童におけるグループ体験エクササイズの効果—自己意識・学級環境評価, 社会的スキルの自己評価から— 福島大学総合教育研究センター紀要, 7, 85-92
- 富永美佐子 印刷中 青年期の進路選択の構造—進路選択能力、進路選択自己効力、進路選択行動の関連— キャリア教育研究 29,
- 富永美佐子 2009 青年期の進路選択能力、進路選択自己効力、進路選択行動の関連 平成 21 年度福島大学人間発達文化学類論集 10,39-50.
- 富永美佐子 2009 青年期の進路選択 季刊誌「進路指導」
- 高谷理恵子 2010 低出生体重児の発達予後と自発運動. 児童心理学の進歩 2010 年版, 金子書房(印刷中)
- 高谷理恵子 2009 乳幼児期初期の身体制御の発達過程. 東北矯正歯科学会雑誌, 17(1), 63-4.
- 富永美佐子 日本キャリア教育学会 北海道・東北地区部会 2009 年度研修会 話題提供:若者のキャリア発達について(予定 仙台)
- 高谷理恵子 乳児の自発運動と発達予後～低出生体重児の発達過程から考える～(仙台 第9回宮城県新生児カンファレンスにて講演)H21 年 12 月 5 日
- 富永美佐子 日本キャリア教育学会 北海道・東北地区部会 2009 年度研修会「青年期の自己の価値について(山本チカ氏)」指定討論者として参加(12 月 5 日 福島)
- 飛田操 集団問題解決過程に及ぼす集団サイズの影響について(大阪大学 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会合同大会ポスター発表)10 月 12 日
- 住吉チカ 自閉症スペクトラム児における全称量化表現理解の発達(京都 立命館大学日本心理学会第73回大会ポスター発表, 下村瑞希と連名)9 月 26 日
- 飛田操 等質性の高い集団と異質性の高い集団での討議の経験が個人の課題遂行に及ぼす効果について(静岡大学 日本教育心理学会第51回総会ポスター発表)9 月 20 日
- 高谷理恵子 乳児期初期の身体制御の発達過程 (6 月 20 日 郡山 郡山市市民交流プラザ第25回東北矯正歯科学会大会のシンポジウム「機能の制御と認知」で発表)

●プロジェクト研究所「発達障害児早期支援研究所」

発達障害及びその疑いのある幼児
及びその保護者に対する就学移行支援と地域連携を
考える実践的・総合的研究

研究概要

私たち(松崎・屋田・鶴巻)は、1977 年度から福島大学学術振興基金の助成を受けて自閉症の早期療育に関する一連の研究に取り組んできました。その結果、保護者を含めた早期支援の重要性と医療・保健機関や保育所・幼稚園・学校と連携した支援体制を構築していくことが喫緊の課題であることが明らかになりました。

こうした研究成果を踏まえて 2002 年度に福島大学内に早期支援教室(通称「つばさ教室」)を開設し、発達に障害のある幼児とその保護者に対する支援を開始しました。こうした私たちの取り組みは 2003 年度から連続して科研費に採択され、加えて 2006 年度には文科省の「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進研究実践支援)」にも採択され、3名がそれぞれに渡り研究を深めて参りました。

本研究所はこうした一連の研究成果を踏まえて、新たにプロジェクト研究員とプロジェクト客員研究員をスタッフに加え、発達障害幼児とその保護者に対する就学移行支援と地域連携について実践的・総合的な研究を行います。



この部分は著作権の関係で
掲載できません。

資料2-1-3 文学・芸術学系の研究成果

●文学・芸術学系の研究業績一覧

- 1) 嶋津 武仁、論文:「教科内容としてのコンピュータ音楽」、文学芸術学系プロジェクト冊子『美・文・音』、2010 年 3月1日発行
- 2) 嶋津 武仁、作品発表:パフォーマンス「石」の音楽、会津パフォーマンスフェスティバル、会津三島町、2009年9月11日/MMACフェスティバルIN仙台、2009年9月14日
- 3) 嶋津 武仁、作品発表:スライド・トランペット・ソロのための「サインズ」NHK FM放送『現代の音楽』、2009年10月 4日
- 4) 嶋津 武仁、作品発表:パフォーマンス「石の呼吸」"Stone Breath for live computer"、台湾電子音楽祭2009、台北、台湾芸術院ホール、2009年10月18日
- 5) 嶋津 武仁、作品発表:パフォーマンス「石の呼吸」、作曲研究会コンサート『新しい音楽への挑戦』、AXC福島、イベントホール、2009年11月7日
- 6) 嶋津 武仁、作品発表:インスタレーション「石との対話」、『岡本太郎の博物館・はじめる視点』、福島県立博物館、会津、2009年11月23日～30日
- 7) 嶋津 武仁、作品発表:弦楽のための「アダージョ」、福島大学管弦楽団定期演奏会、福島市音楽堂、2009年12月26日
- 8) 嶋津 武仁、作品発表:(アレンジ、原曲:ビバルディ作曲)、"Piango, gemo"、"オーケストラ・フィルジッヒ 第5回演奏会"福島市音楽堂、2010年1月30日
- 9) 嶋津 武仁、作品発表:(アレンジ)、"Piacere-d'amor"他6曲、コンサート「オペラの華、リート的心」、アトリオン室内オーケストラ(秋田市)、アトリオン・ホール、2010年3月22日
- 10) 嶋津 武仁、指揮:「福島大学創立60周年記念コンサート」、福島市音楽堂、2009年10月24日
- 11) 嶋津 武仁、指揮:「福島学院卒業記念コンサート」、福島県文化センター 2010年3月11日
- 12) Shimazu, Takehito, 学会発表"Sound materials and Ways of thinking, Thoughts in Electronic and Computer Music, getting from Traditional Japanese Art ", 5th WOCMAT2009 (International Workshop on Computer Music and Audio Technology), International Conference Center/Taipei University, Taiwan/Taipei, Oct. 19, Monday, 2009
- 13) 嶋津 武仁、評論:福島創作オペラ「いのち甦る」公演を終えてく上>、福島民報、2010年3月21日
- 14) 嶋津 武仁、福島創作オペラ「いのち甦る」公演を終えてく下>、福島民報 2010年3月28日
- 15) ピアトリオ演奏会 金谷昌治 他2名 清水市 ルードウィッヒホール 2009年 6/7 ピアノ3重奏
- 16) 相曾賢一朗ヴァイオリンリサイタル 金谷昌治 他2名 大宮市 大宮教会聖堂 2009年11/21ピアノ3重奏
- 17) カメラータ・セシリア コンサート 金谷昌治 他2名 福島市 福島テルサFTホール 2009年11/22 独奏およびピアノ3重奏
- 18) 桜の聖母短期大学 芸術鑑賞会 金谷昌治 他1名 福島市 桜の聖母短期大学 マリアンホール 2009年11/26 独奏
- 19) セミナーレ/カメラータ 第10回コンサート 金谷昌治 他41人 福島市 福島テルサFTホール 2009年11/22 指揮
- 20) 伊達華子、植木由利子、中畑淳、古賀望子(共著)論文:「実技系科目のシラバスに関する研究 ―楽譜を読む能力の開発―」山形大学紀要 平成22年2月発行
- 21) 福島大学創立60周年記念演奏会 主催:福島大学 会場:福島市音楽堂(福島県福島市)2009年10月24日 中畑淳他8団体 独奏、室内楽
- 22) ハイドンクヴァターアソナタ全曲演奏会 中畑淳他25名 主催:演奏表現学会 会場:セシオン杉並(東京都杉並区)2009年11月22日 独奏
- 23) 桜の聖母短期大学芸術鑑賞会「チェロとピアノ演奏会 ～心の音～」 中畑淳他1名 主催:桜の聖母短期大学 会場:マリアンホール(福島県福島市)2009年11月26日 独奏、室内楽
- 24) 山形大学教員コンサート 中畑淳他3名 主催:山形大学 会場:山形大学地域文化ホール(山形県山形市)2010年2月14日 独奏
- 25) 渡邊晃一、赤坂憲雄(共著)、著書:『はじめる視点』、福島県立博物館発行、平成21年11月
- 26) 渡邊晃一(共著)、著書:『風と土の芸術祭Artown in Misato 2009』、会津美里町発行
- 27) 渡邊晃一(共著)、著書:「表現」とはなにか」、保育内容シリーズ『造形』、一藝社、平成22年3月発刊予定(改訂版)
- 28) 渡邊晃一、著書:『渡邊晃一作品集 テキストとイメージの肌膚』、『テキストとイメージの肌膚』青幻舎、平成22年3月発刊予定
- 29) 渡邊晃一、大野一雄ほか24、実技・技能:『大野一雄 OHNO 101+Kusuno』、『TOKYOGAQUI』 SESC Avenida Paulista, サンパウロ、ブラジル
- 30) 渡邊晃一、実技・技能:《縄文土器とフタバスズキリュウによるインスタレーション》、福島県立博物館、平成21年7月5日(平山素子のダンスとのコラボレーション)主催 福島県立博物館
- 31) 渡邊晃一他30名、《On An Earth 2009-1》実技・技能:『風と土の芸術祭 Artown in Misato 2009』、会津美里町 市街地、平成21年9月19日～9月23日、主催:福島県立博物館
- 32) 渡邊晃一他42名、実技・技能:《東北の太陽の塔》『岡本太郎の博物館・はじめる視点』 福島県立博物館、平成21年10月10日～11月23日 主催 福島県立博物館
- 33) 渡邊晃一他4名、《DANAE '09》実技・技能:『福島子どもみらい映画祭』アート部門、ビックパレットふくしま、平成21年10月24日～25日、主催 福島県文化スポーツ局、文化庁「地域文化芸術振興プラン」
- 34) 渡邊晃一、橋本章他20名、実技・技能:《On An Earth 2009-2》『橋本章 響振展』 伊達市梁川美術館、平成21年10月10日～18日、主催 伊達市梁川美術館
- 35) 渡邊晃一(舞台美術)、平山素子ほか、実技・技能:(コンテンポラリーダンス)『LifeCastig ～型取られる生命～』、新国立劇場/渋谷、以後、兵庫、長野を巡回、平成21年(朝日舞台芸術賞受賞)
- 36) 渡邊晃一(舞台美術)、竹澤嘉明他、実技・技能:(オペラ)『いのち甦る』、福島県文化センター、平成21年12月23日、主催 福島県文化振興事業団、文化庁「地域文化芸術振興プラン」
- 37) 渡邊晃一ほか5名、学会発表:パネリスト「教科内容学は美術教育を進化させるのか?」全国大学美術教育学会(第48回愛知大会)、平成21年9月25日

- 38) 渡邊晃一、学会口頭発表「メディア時代の《十牛図》— 現代美術における「見跡」を中心に —」、全国大学美術教育学会(第48回愛知大会)、平成21年9月25日
- 39) 渡邊晃一、学会ポスター発表「芸術における地域文化の創造について」全国大学美術教育学会(第48回愛知大会)、平成21年9月25日
- 40) 新井 浩 第83回国展彫刻部 国立新美術館 H21.4/29～5/11 「水瓶座」 183×60×100センチ
- 41) 新井 浩 第32回彫刻部の試み展 東京都美術館 H21.12/16～12/22 「風渉る」 97×55×35センチ
- 42) 新井 浩 第3回海の見える杜美術館彫刻ビエンナーレ 海の見える杜美術館受賞審査会 H21. 10/17、「蝶が舞う森—環—(マケット)」 77×24×24センチ
- 43) 新井 浩 国画会福島作家展 矢吹町ふるさとの森芸術村 H21.8/2～8/23 「蝶が舞う森<環>」175×60×60センチ
- 44) 新井 浩 同ワークショップ「ピカッと泥だんご」 H21.8/22
- 45) 新井 浩 2009CAF.N仙台展 仙台メディアテーク H21.7/10～7/15 「水瓶座」 183×60×100センチ
- 46) 新井 浩 YEAR END EXHIBITION OF MINI-SCULPTURE ギャラリーせいほう H20.12/10～12/20
- 47) 新井 浩 福島大学創立60周年記念美術展 福島県文化センターH22.3/11～3/14 「私に出会った日」 140×60×90センチ
- 48) 新井 浩 蝶が舞う森<環>175×60×60 第82回国展彫刻部 於国立新美術館会員出品2008. 5
- 49) 個展幻想の森をテーマに新井浩個展33点出品 於日本橋三越本店2008. 9
- 50) 蝶が舞う森<環>No. 2>75×23×23第32回彫刻部の試み展 於東京都美術館彫刻部出品2008. 12
- 51) 奏一吹き渡る風—ほか2点出品十二月展 於ギャラリーニケ銀座画廊企画2008. 12
- 52) 嶋津武仁【学会発表】「日本の音楽の表現西洋音楽との溝」福島大学附属中学校公開講演2008. 5
- 53)「Electronic music for Japanese composers now -its tendency until now」2008
- 54)MUSIACOUSTICA CEMC-EMSAN dayAsian Forum 於The Large Hall of The China Millennium Moment 2008. 10
- 55)「Difference between Japan and Europe in the Electro-acoustic Music」The32nd InSEA World Congress 2008 World Congress and Reseach Conference International House 於CCON(北京中央音楽院)Studio 5 2008. 10
- 56)編曲「ジムノペディー」(原曲:サティ)『福島大学管弦楽団サマー・コンサート』於福島市音楽堂 2008. 8
- 57)「パフォーマンズ『石』の音楽」『会津アート・カレッジ』於会津三島町 2008. 9
- 58)「"Roaming Stars SAN" for 13-gen Koto and projector」Mediation Biennale Centrum Kultury Zamek 於Poznan,Poland 2008. 10
- 59)「Electronic music "Thought in Zero degree"」Beijing Electronic Music Festival2008 於北京中央音楽院附属高校ホール2008. 10
- 60)オーケストラの為に「子守唄」オーケストラ・フィルジツヒ演奏会 於福島市音楽堂2009. 1
- 61)コンピュータ音楽「石の息」電子音楽コンサート□於日仏会館(東京)2009. 2

●冊子「美・文・音」

C O N T E N T S

福島大学 文学・芸術学系プロジェクト

美・文・音



〈絵〉〈画〉の教科書内容学の一考察 —身体、視覚、言語との関わりから— 渡邊晃一	07
字源指導を取り入れた初等漢字教育の試み —『101漢字カルタ』を活用して— 澁澤 尚	18
教科内容としての創作方法 ～コンピュータ音楽～ 嶋津武仁	29
彫刻教材としての木の扱いについて 新井 浩	39
木工デザインの可能性を考える 片野 一	41

(平成 22 年 3 月発行)

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

資料 2-1-4 健康・運動学系の研究成果

●福島大学版日常身体活動量調査票（FUPAQ）（抜粋）

福島大学版日常身体活動量調査票（FUPAQ）（抜粋）

学籍番号（ ） 氏名（ ） 性別 男・女
 授業科目（ ） 曜日（ ） 時限目 種目（ ）

最近のあなたの身体活動状況（運動習慣や日常生活でどの程度身体を動かしているか）について、1. 大学への通学状況、2. 授業、3. サークル活動、4. アルバイト、5. 住まい（家、部屋）での活動、6. 余暇活動、に分けて伺います。

各設問において（ ）に数字を記入してください。または該当する数字や記号に○印を付けてください。該当しない場合は「0」を記入してください。

6. 余暇活動

(ア) サークル活動以外で身体を動かすようなこと（洗車、ストレッチ、散歩、ジョギング、友人とテニスをする、ボーリングなど）やっていますか。それは1週間で何時間くらい行っていますか。1週間の合計で答えてください。また、その活動はどのような身体活動を伴いますか。活動内容の直ぐ下の選択肢より選んでください。

① 活動内容（ ） 1週間で（ ）時間（ ）分

1. 身体活動状況

(ア) 座っていることが多い
 (イ) 立っていることが多い
 (ウ) 歩くことが多い
 (エ) 簡単な作業や速歩など、少し息が弾むような活動が多い
 (オ) 荷物を運んだり、スポーツをしたりなど、呼吸が乱れるような活動が多い
 (カ) かなり呼吸が乱れるような活動が多い

※活動の中での、その強度の活動が占める割合 () %

2. 活動場所への移動状況

(ア) 活動場所への移動のために1週間でどれくらい歩きますか。（往復すべて）
 1週間で（ ）時間（ ）分
 (イ) 活動場所への移動のために1週間でどれくらい自転車に乗りますか。（往復すべて）
 1週間で（ ）時間（ ）分

2. 体格

あなたの体重を記入してください。 () kg
＜体重の記入がないと、身体活動量を算出することができません。必ず記入してください。＞

●e-ラーニングシステム「e-Karada」スライド画面

e-Karada メタボ編

Weighty Issue “重い課題”

グローバルな視点で食と肥満問題を考える

肥満と疾病との関係を
確認しよう

**メタボリックシンドローム
（内臓脂肪症候群）**

お腹ぽっこり*肥満
+
糖尿病、高脂血症、高血圧などの
危険因子を複数持っている

↓

メタボリックシンドローム

*皮下脂肪と内臓脂肪の違い
（定期預金と普通預金）

図 肥満者(BMI≥25)の割合(20歳以上)

BMI(横軸)と呼吸循環器系の疾患による死

BMIとガン

BMIと他の死因

BMIと糖尿病、高血圧、高脂血症との関係

資料2-1-5 外国語・外国文化学系の研究成果

●外国語・外国文化学系の研究業績一覧

- 国際学会ポスター発表 “The Internal Structure of Japanese Wh-phrases: Introducing Answer Set,” poster session, 18th Colloquium on Generative Grammar, Faculdade de Letras da Universidade de Lisboa, Portugal. 2008年4月17～19日
- 学会発表「公立小学校低学年の英語リスニング力と心理的要因との関係」(第8回小学校英語教育学会(JES)福島大会 於:ビッグパレットふくしま) 2008年7月20日
- 学会発表「小学校英語活動におけるリスニング力と心理的要因に関する1年後の変容:小学3年から6年のデータをめぐって」(第34回全国英語教育学会 東京研究大会 於:昭和女子大学) 2008年8月10日
- 新英米文学会全国大会シンポジウム報告「Reds」とNoir—カルチュラル・フロントとフィルム・ノワール」2008年8月24日
- 「ワーキングメモリ内の英語処理に関する母語話者と日本人外国語学習者との比較研究」JLTA Journal No.11 (日本言語テスト学会)173-188頁 2008年9月
- 国際学会口頭発表 “On the Internal Structure of Japanese Wh-phrases: Introducing Answer Set,” Linguistics Association of Great Britain Meeting 2008, at University of Essex. 2008年9月12日
- 「限界点を越える—V-すぎる」の意味計算と解釈コスト」岩本遠億編著『事象アスペクト論』第5章、開拓社 2008年11月
- 第34回全国語学教育学会(JALT)国際大会 報告。“Error Gravity”(英語誤りの重みづけ)。東京国立オリンピック記念青少年総合センター 2008年11月3日
- 国際学会ポスター発表 “Alternative Semantics and WH-Indeterminates in Right Periphery,” poster session, The Second International Conference on East Asian Linguistics, Simon Fraser University, Vancouver, Canada. 2008年11月7～9日
- 東北ドイツ文学会報告「福島大学のドイツ語教育—全体の取り組みと個別事例」2008年11月15日
- 日本フランス語フランス文学会東北支部大会にて研究発表 2008年11月29日
- 田島松二、末松信子編『英語史研究ノート』開文社 2008年12月
- 「地域を変革する触媒装置としての美術館」福島県立美術館企画展カタログ『福島の新世代 2009 CLOSE TO YOU!—もっと近くに』所収 2009年1月
- 日本独文学会主催ドイツ語教授法ゼミナールで研究発表「文法の教授法について」(プロジェクト研究成果の発表)2009年3月19～22日
- “Changes in Listening Ability and Psychological Factors Influenced by Elementary School English Activities” ARELE Vol.20(全国英語教育学会) 原稿数10頁 2009年3月31日
- 「公立小学校低学年の英語活動がもたらすリスニング力及び心理的要因への影響」『東北英語教育学会研究紀要第29号』(東北英語教育学会)原稿数15頁 2009年3月31日発行
- 学会発表 “Using 30-second Ads in the Classroom”, 全国英語教育学会 静岡支部会 静岡市 ワークショップ形式による2時間の発表 2009年6月14日
- 学会発表「語用論との接点:期待値を表示する構造—「V-すぎる」の事象投射構造—」日本言語学会ワークショップ『概念構造と他領域との接点—事象投射理論の可能性—』(神田外語大学) 2009年6月20日
- 学会発表 “Noticing gaps in teacher and student evaluations.” 全国言語教育学会・仙台支部会。仙台市 2009年6月28日
- 研究論文 “A Short Note on the Internal Structure of Japanese Wh-Phrases,”『商学論集』第78巻1号, pp.13-20. 2009年6月
- 研究論文「形容詞連用形による副詞的修飾関係——モノのサマの修飾関係を中心に」『国文学 解釈と鑑賞』74巻7号、至文堂、2009年6月
- 学会発表(国際学会) “Why Is Integrated Parenthetical Integrated?” the 4th International Conference on Formal Linguistics at Beijing Foreign Studies University, Beijing, China. 2009年7月21日
- 学会発表(国際学会) “English digit span improves through English class activities in Japanese primary school children: A cross-sectional sequential study” SARMAC VIII (Society for Applied Research in Memory and Cognition) (京都平安会館)
- 学会発表(国際学会) “Erkenntnisse über Grammatikvermittlungsansätze mit Hilfe von Aktionsforschung”, IDT International German Teachers’ Conference, Jena(ドイツ)
- 翻訳 ジェラルド・マノニ、『パリオペラ座のマニエール・ルグリ』、新書館 2009年8月
- 学会発表(国際学会) 「Restructuration de l’Orient, a propos de la Durasie de Marguerite Duras」、国際シンポジウム「Orient de Marguerite Duras」、東北大学 2009年9月
- 学会発表(国際学会) “L’Art et la sexualite chez Dominique Fernandez et Yukio Mishima”, 国際シンポジウム “Dominique Fernandez, citoyen du monde”, Babes-Bolyai 大学, ルーマニア 2009年9月
- 学会発表(国際学会) “Wh-Elements in Right Periphery and Alternative Semantics,” LAGB Meeting 2009, at University of Edinburgh. 2009年9月7日
- 学会発表(国際学会) “Wh-Scope Marking and Argument/Predicate Distinction,” Le huitieme Colloque de Syntaxe et Semantique a Paris (The 8th Syntax and Semantics Conference in Paris), at Universite Paris-Sorbonne, Paris. 2009年9月24日
- 著書(共著)「Beowulfを読み直す—一動詞 weordian の意味をめぐって」唐澤一友(編)『ベ—オウルフ』とその周辺』(春秋社、2009)pp. 142-155. 所収 2009年9月
- 研究論文 “Wie wird die Qualität des Deutschunterrichts gesichert? Was brauchen wir dafür?” Ein erster Schritt – durch Untersuchungen des eigenen Unterrichts Qualität anstreben 日本独文学会ドイツ語教育部会 DaF 14「ドイツ語教育」14号, ISSN 1342-6575 2009年10月10日
- 学会発表 “Not Just a Commercial: Narrative that Demonstrated Communication Dynamics” 第17回全国英語教育学会(KOTESOL). 韓国(ソウル市) 2009年10月24日
- 学会発表 “Comparing teacher and student evaluations of error.” 第17回全国英語教育学会(KOTESOL). 韓国(ソウル市) 2009年10月24日
- 研究発表「なぜ「赤く」は「塗る」を修飾できるのか試論」現代日本語文法研究会第7回大会(筑波大学)2009年11月14日
- 学会発表(国際大会) “Erkenntnisse über den eigenen Unterricht mit Hilfe von Aktionsforschung - Akzeptanz von Lernenden in Bezug auf unterschiedliche Unterrichtsansätze” 全国語学教育学会 第35回 国際年次大会

教材展示会 ― 教育と学習の対話:多様な鏡像 静岡市、2009 年 11 月 22 日

- 研究論文 「日本語結果構文における限定と強制」小野尚之編 『結果構文のタイポロジー』 ひつじ書房 2009 年 11 月
- 学会発表 特定非営利法人全国語学教育学会 (JALT) 秋田支部・岩手支部 “The 30-second ad in the classroom: Using TV commercials to liven things up” 2009 年 12 月 12 日～13 日
- 学会発表 (国際学会) “Why Integrated?” the 8th Formal Description of Slavic Languages, Universtat Potsdam, Germany. 2009 年 12 月 3 日
- 研究論文 Japanese Motivation and Intelligibility of English as an International Language (共著)『商学論集 第 78 巻第 2 号』 2009 年 12 月 2009 年 12 月
- 研究論文 “Hearg and weoh in Beowulf, ll. 175-8a”.
- Studies in the History of the English Language, 2006-2009, Edited by the Japanese Association for Studies in the History of the English Language, 大阪洋書 2010 年 3 月
- 学会発表 (国際学会) “A Study on Japanese and English Versions of Stroop and Reverse-Stroop Tests in Japanese Elementary School Higher Grade Students” The 8th Tsukuba International Conference on Memory (於: つくば国際会議場) 2010 年 3 月 30 日
- 研究論文 「外国語活動移行期における公立小学校中核教員の意識調査:現状と課題」『東北英語教育学会研究紀要第30号』 15 頁分 2010 年 3 月 31 日
- 研究論文 “Grammatik auf Japanisch unterrichten? – Erkenntnisse über Grammatikvermittlungsansätze mit Hilfe von Aktionsforschung” Sammelband d. 13. u. 14. DaF Seminars “Grammatik lehren und lernen im Deutschunterricht in Japan - empirische Zugänge”, 日本独文学会 (掲載決定)

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

資料 2－1－6 法律・政治学系の研究成果

●法律・政治学系の研究業績一覧

（「地域の行政組織や社会的諸集団が直面する再編と改革の課題や新たな地域での役割と在り様に関する総合的な研究」に限る。）

1. 法学教員グループ「福島における法律相談と法学教育(その1～2)」『行政社会論集』第 21 巻 第 3～4 号、2009 年
2. 法学教員グループ「司法制度改革と高等教育機関における法学教育のあり方(その1)」『行政社会論集』第 22 巻第 3 号、2010 年
3. 今井照「市町村合併に伴う自治体政治の動向について」日本政治学会 2009 年度研究大会報告、日 本大学、2009 年 10 月
4. 功刀俊洋「革新市政発展前史(2の上、下)」『行政社会論集』第 22 巻第1～2号、2009 年6月、9月
5. 松野光伸「議会の附属機関に参加して―会津若松市議会の条例制定過程から」自治体議会改革フォーラム編『議会改革白書 2009 年版』、生活社、2009 年
6. 松野光伸「地方分権と議会の自己改革―会津若松市議会基本条例をめぐる」清水・鈴木・斎藤編『地域力再生』光土社、2009 年
7. 今井照『「平成大合併」の政治学』単書 公人社 2008
8. 今井照『市民自治のこれまで・これから』共著 公職研 2008
9. 今井照『自治体政策研究ノート』単著 公人の友社 2008
10. 今井照「自治体行財政の課題」『JP 総研リサーチ』通巻2号 2008.4
11. 今井照「郵政民営化と自治体経営改革～郵便局窓口と自治体行政組織との融合の可能性について」『自治総研』通巻第 355 号 2008.5
12. 今井照「『総合行政主体』論の軛からの脱却」『ガバナンス』通巻第 112 号 2008.8
13. 今井照「市町村合併に伴う自治体政治動向について(2008)―自治体選挙、直接請求等の集計・分析―」『自治総研』通巻第 360 号 2008.10
14. 今井照「人口減少社会の地域社会をどう設計するか」『月刊自治研』通巻 592 号 2009.1
15. 今井照「自治体のアウトソーシングと非『正規』職員」『ガバナンス』通巻第 118 号 2009.2
16. 今井照「合併と自治の今とこれから」自治体学会発表 於盛岡市 2008.8

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

(出典：平成 21 年 7 月 31 日福島民友新聞掲載)

資料 2-1-7 経済学系の研究成果

●経済学系の研究業績一覧

- 井上健・阿部高樹・小島彰・星野珙二「ホッキガイの資源管理型漁業—苫小牧漁協、いぶり中央漁協虎杖浜支所・白老支所・登別支所の事例—」『福島大学地域創造』第19巻第2号、2008.
- 学会発表：小島彰「漁協による水産資源管理—ホッキガイ事を例に—」東北経済学会、2008.
- 学会発表：初澤敏生「北海道むかわ町におけるホッキガイの資源管理」日本地理学会、2008.
- 井上健・小島彰・東田啓作「ホッキガイの資源管理型漁業—相馬双葉漁協請戸支所、いわき市漁協久之浜支所・沼之内支所の事例—」『福島大学地域創造』第20巻第1号、2008.
- 清水修二・小山良太・下平尾勲『あすの地域論』八朔社、2008年。
- 阿部高樹「日本における沿岸漁業の共同体管理：経済学的分析に向けて」『福島大学地域創造』第20巻第2号、2009.
- 井上健・阿部高樹・東田啓作「ホッキガイの資源管理型漁業—東北地方主要漁場について—」『海洋水産エンジニアリング』第81巻、海洋水産システム協会、2008.
- 井上健・阿部高樹・小島彰・東田啓作「ホッキガイの資源管理型漁業—釧路支庁、根室支庁の事例—」『福島大学地域創造』第21巻第1号、2008.
- 東田啓作・井上健・小島彰「ホッキガイの資源管理型漁業—網走支庁4漁協の事例—」『福島大学地域創造』第20巻第2号、2009.
- 小島彰・初澤敏生・阿部高樹・井上健・熊本尚雄「ハマグリ漁におけるプール制について—鹿島灘漁協、はさき漁協、大洗町漁協の事例—」『福島大学研究年報』第5号、2009.
- 初澤敏生「カマボコ製造業の地域的特性」『福島大学研究年報』第5号、2009.
- 清水修二・藤本典嗣「自治体入札制度改革と建設業の再編成」『商学論集』第77巻第2号、2009.

資料 2-1-8 経営学系の研究成果

●経営学系の研究業績一覧

- 著書 吉田智也 エッセンス簿記会計第5版 共著(分担執筆) 森山書店
- 著書 吉田智也 全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト第2版 共著(分担執筆) 中央経済社
- 著書 吉田智也 財務会計学通論共著 (分担執筆) 税務経理協会
- その他 吉田智也 税理士受験ハイパー・トレーニング簿記論(第8回～第12回)『会計人コース』43・4～43・10 2008. 4～2008. 8
- その他 吉田智也「新会計基準における勘定科目の利用」日本簿記学会簿記実務研究部会・報告 於法政大学(東京都千代田区) 2008. 10
- その他 吉田智也「公会計の基本的な仕組み」会計戦略研究会・報告 於チェンバおおまち(福島市) 2008. 12
- その他 吉田智也「棚卸資産会計基準における勘定科目」日本簿記学会簿記実務研究部会・報告 於法政大学(東京都千代田区) 2008. 12
- その他 吉田智也「公会計の現状と課題」会計戦略研究会・報告 於チェンバおおまち(福島市) 2009. 1
- 研究発表「日中企業における経営戦略に関する比較研究」中国・中南財經政法大学工商管理学院 2009.2.23
- 論文 三崎秀央、上野山達哉「組織的公正への影響因についての日中企業の比較」商学論集第77巻第2号 2009.3
- 報告 遠藤明子「消費者の苦情行動と企業の苦情処理：日中台比較」福島大学経済学会 Discussion Paper Series No.64 2009.3.19

資料 2-1-9 社会・歴史学系の研究成果

●社会・歴史学系の研究業績一覧

- 浅岡善治【書評】高田和夫著『近代ロシア農民文化史研究—人の移動と文化の変容』岩波書店(二〇〇七年三月)単著『ロシア史研究』第82号 2008. 5
- 浅岡善治【書評】池田嘉郎『革命ロシアの共和国とネーション』単著『歴史学研究』第849号 2009. 1
- 今西一男【調査報告】地域自治組織から見た地方都市におけるマンション立地—福島市を事例に— 単著 2008年度日本建築学会大会学術講演梗概集F-1 p.49-50 2008. 7
- 今西一男【学会発表】地域自治組織から見た地方都市におけるマンション開発 都市住宅学会大会第16回学術講演会 於松山大学 2008. 11
- 今西一男【学会発表】地域自治組織から見た地方都市におけるマンション立地—福島市を事例に— 2008年度日本建築学会大会学術講演会 於広島大学 2008. 9
- 今西一男【その他】なぜいま「政策形成型研修」か—「全国の自治体職員研修機関における『政策形成型研修』の実施に関する調査」から—(上) 単著 公職研編集・発行『地方自治職員研修』2008年10月号p. 84-85 2008. 10
- 今西一男【その他】なぜいま「政策形成型研修」か—「全国の自治体職員研修機関における『政策形成型研修』の実施に関する調査」から—(下) 単著 公職研編集・発行『地方自治職員研修』2008年11月号p. 82-83 2008. 11
- 高橋準【著書】ジェンダー学への道案内(改訂版) 単著 北樹出版
- 高橋準【論文】戦後日本における女性のライフコースの変化と労働、生活に対する意識—福島県立A 高校卒業生への聴き取り調査から 行政社会論集21巻4号 2009. 3
- 高橋準【書評】フェミニストは「トラブル」がお好き？(金井淑子編著『身体とアイデンティティ・トラブル』明石書店刊、を読む) 図書新聞 2885号 2008. 9
- 丹波史紀【著書】公的扶助論—低所得者に対する支援と生活保護制度— 岩田正美・杉村宏編著 ミネルヴァ書房
- 丹波史紀【著書】現場がつくる新しい社会福祉 総合社会福祉研究所編 かもがわ出版
- 丹波史紀【著書】よくわかる公的扶助 杉村宏・岡部卓・布川日佐史編 ミネルヴァ書房
- 丹波史紀【調査報告】福祉・教育・医療など広く社会的な努力でしあわせ平等の実現を 福祉のひろばpp. 9-11 2008. 10
- 牧田実【著書】あすの地域論 共著 八朔社
- 安田尚【論文】「ピエール・ブルデューのメディア論」行政社会論集 20巻4号 2008. 3.

●「福島大学権利擁護システム研究所」設立記念講演会

日時
9/26
午後2時30分～

講師
宇都宮 健児 (弁護士)

現代日本の貧困と反貧困運動
市民の権利を守りつづけて

福島大学権利擁護システム研究所設立記念講演会

主催
福島大学

会場
福島県農業総合センター
郡山市日和田町馬場字下中道115番地

連携団体
福島県弁護士会、福島県司法書士会、福島県行政書士会、福島県社会福祉士会、福島県社会福祉協議会、福島市社会福祉協議会、福島県消費生活センター

後援
福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM

お問い合わせ先
福島大学 行政政策学類
〒960-1295 福島市金町11番地
TEL: 024-548-8253
FAX: 024-548-5174

入場無料

(出典：記念講演会チラシ)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(出典：平成21年9月27日「福島民報」)

資料2-1-10 数理・情報学系の研究成果

●数理・情報学系の研究業績一覧

- Kazuyuki Miura, Tetsuya Matsuno and Takao Nishizeki, "Open Rectangle-of-Influence Drawings of Inner Triangulated Plane Graphs", Discrete and Computational Geometry, DOI 10.1007/s00454-008-9098-2, (2008).
- Kazuyuki Miura, Akira Kamada and Takao Nishizeki, "Convex Grid Drawings of Plane Graphs with Rectangular Contours", Journal of Graph Algorithms and Applications, Vol.12, No.2, pp.197-224 (2008).
- Masao Yokoyama, "Flow-shop scheduling with setup and assembly operations", European Journal of Operational Research, Vol.187, No.3, pp. 1184-1195, (2008).
- 渡部昌邦・渡邊景子・篠田伸夫・永野 和男, 「広域定点観測プロジェクトの成果と課題」, 電子情報通信学会教育工学研究会, 2008年7月19日, 福島大学まちなかブランチ
- 篠田 伸夫・渡部 昌邦・渡邊 景子・永野 和男, 「teiten2000 データ 検索インターフェース「空」の開発 ～ 晴れている写真を探したい ～」, 情報ネットワーク教育活用研究協議会(JNK4)合宿研究会, 2008年7月26・27日, ホテルコスモスクエア国際 交流センター(大阪)
- 笠井博則, 「熱・波動方程式の等高線の挙動-Ginzburg-Landau 方程式の渦点を追うために」, 講演(サーベイ), 東北大学応用数学セミナー夏季合宿, 2008年8月22日～24日, みやぎ蔵王高原ホテル(プログラムを添付: 東北大学数学セミナー蔵王合宿 2008.pdf)
- 篠田 伸夫・渡部 昌邦・渡邊 景子, 「定点観測システムの構築と観測データの提供」, 日本産業技術教育学会東北支部会論文誌 Vol.2 (2008年10月1日)
- 渡部昌邦・渡邊景子・篠田伸夫・永野 和男, 「広域定点観 測プロジェクトの成果と課題」, 日本教育工学会 第24回全国大会, 2008年10月12日, 上越教育大学

- 佐久間 勇行, 樋口良之, 金淳, 「パークアンドライド併用の観光地バス駐車場における待ち行列特性の解析」, 日本経営システム学会 第41回(2008年秋季) 全国研究発表大会 立命館大学, 2008 年 12 月 7 日
- 董 彦文, 「ファジィ加重平均を用いた取引先信用評価手法に関する研究」, 日本ロジスティクスシステム学会 第 11 回全国大会予稿集, pp.85-88, 2008.
- 董 彦文・星野珉二, 「事例ベース推論を用いた生産日程計画システムの設計」, 日本経営工学会平成 20 年度 秋季研究大会予稿集, pp.244-245, 2008.
- 石岡賢・安田一彦, 「持続可能性を考慮した製品開発マネジメントに関する概念的考察」, 経営情報学会 2008 年秋季全国研究発表大会予稿集, CD-ROM, 2008 年 11 月 8 日-9 日, 東北大学
- 篠田伸夫, 「ゼミで使える簡易インタラクティブ・ホワイトボードの紹介」, 福島大学総合情報処理センター広報 (技術レポート), 2009 年 2 月 2 日
- 笠井博則, Emergenc and Annihilation of Votices for Ginzburg-Landau Equations」, The 1st GCOE International Symposium, "Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy", March 5 (Thu) - March 7 (Sat), 2009 東北大学 川内キャンパス <http://www.scienceweb.tohoku.ac.jp/special/gcoeis2009/>
- Yanwen Dong: "Application of Bagging for Solving Small-Businesses' Credit Assessment Problems Based On Daily Transaction Data", 中国管理信息化(China Management Informationization), 2009, No.15, pp.115-119 (2009).
- Yanwen Dong, Xiyang Hao: "An Entropy Approach to Assessment of Small-Businesses' Credit Based On Daily Transaction Data", Proceedings of The 5th International Congress on Logistics and SCM Systems(ICLS 2009), pp.517-521, Seoul, Korea, June 2-5(2009).
- Yanwen Dong, Kyoji Hoshino: "An Ant Colony Optimization Method for Fuzzy Vehicle Routing Problem", The 20th International Conference on Production Research (ICPR20), Shanghai, China, 2-6 August (2009)
- Ryoko Kobari, Yanwen Dong: "Applying the Fuzzy Weighted Average to Evaluate Information Leakage Risk", The 2nd International Workshop on Institutional Supply Chain Management, Xi'an China, 8-10 August (2009)
- Yanwen DONG, Yoshiyuki HIGUCHI: "Application of Ant Colony System to Fuzzy Vehicle Routing Problem", The 2nd International Workshop on Institutional Supply Chain Management, Xi'an China, 8-10 August (2009)
- 董 彦文: 「待ち時間と時間遅れのペナルティーを考慮したファジィ配送スケジューリング問題の ACO 解法」, 日本ロジスティクスシステム学会第 12 回全国大会予稿集, pp.53-56 (2009).
- Yoshihiro Aihara, "Deficiencies of holomorphic curves in algebraic manifolds", Proc. the 16th International Conf. Dinite or Infinite Dimensional Complex Analysis and Applications, pp.70-75.
- 森川幾太郎, 「食料供給の未来を相関係数の目から予測する」, 数学教育実践研究会「実践研究」, no.22, pp.1-11 2009 年 8 月発刊
- Masaru Ishioka, Kazuhiko Yasuda, "A Study on the Strategic Application of Service Innovation Concept", Proceedings of the Fourth International KMO Conference Knowledge management and service science, KMO 2009, June 23-24, 2009, Taipei, Taiwan. (CD-ROM)
- Masaru Ishioka, Kazuhiko Yasuda, "Product Development Concept with Product Sustainability", Proceedings of the Portland International Conference on Management of Engineering and Technology '09 Conference, PICMET 2009, 2-6 Aug, 2009, Portland, Oregon. (CD-ROM)
- Masaru Ishioka, Kazuhiko Yasuda, "Strategic Management of Innovation Concepts for Current Product Market", Proceedings of the The Fourth European Conference on Management of Technology 'Closing the Innovation Gap: Theory and Practice', Euro MOT 2009, September 6th-8th 2009, Glasgow, Scotland. (CD-ROM)
- Masaru Ishioka, Kazuhiko Yasuda, "Product Development Management with Societal Marketing Concept", Proceedings of the International Conference on Integration of Design, Engineering, and Management for innovation, iDEMi 09, 14-15 Sep. 2009, Porto, Portugal. (CD-ROM)
- Masaru Ishioka, Kazuhiko Yasuda, "A study on market oriented product innovation strategies for technology product market", Proceedings of the 16th Industrial Engineering and Engineering Management, IE&EM 2009. , 21-23 Oct. 2009, Beijing. (CD-ROM)
- 長尾友和、三浦一之(福島大学), 「座席配置問題に対するアルゴリズム」, 平成 21 年度 第 4 回情報処理学会 東北支部研究会, 2010 年 2 月 6 日(土), 日本大学工学部
- 木村文哉、三浦一之(福島大学), 「内部三角化平面グラフの開矩形勢力描画」, 平成 21 年度 第 4 回情報処理学会東北支部研究会, 2010 年 2 月 6 日(土), 日本大学工学部
- 宍戸慶之輔、三浦一之(福島大学), 「内部 3 連結グラフの格子凸描画」, 平成 21 年度 第 4 回情報処理学会東北支部研究会, 2010 年 2 月 6 日(土), 日本大学工学部
- 園部拓実、三浦一之(福島大学), 「2 分木の HV 描画アルゴリズムのシミュレーション」, 平成 21 年度 第 4 回情報処理学会東北支部研究会, 2010 年 2 月 6 日(土), 日本大学工学部
- 相原義弘, "Deficiencies of holomorphic curves in projective varieties", 「複素解析研究集会(講演)」, 2010 年 1 月 9 日
- 相原義弘, "A defect relation for holomorphic cueves", 日本数学会年会(講演), 2010 年, 3 月
- 相原義弘, "Deficiencies of holomorphic curves in algebraic curves", 日本数学会年会(講演), 2010 年 3 月
- 森川幾太郎, 「図形の対称性と対称移動と証明問題作り」, 第 41 回東北数学教育学会年会, 09 年 12 月 5 日, 八戸市 東北女子大学
- 森川幾太郎, 「図形の対称性と証明問題作り」, 東北数学教育学会・年報 第 41 号, 10 年 3 月
- 森川幾太郎(監修), 「ぐんぐんできる算数練習帳 1 年」, きょういくネット(東京), 10 年 3 月

この部分は著作権の関係で掲載できません。

資料2-1-1 リーフレット「地域とともに歩む福島大学」(抜粋)

地域と共に歩む福島大学

新生福島大学宣言

社会貢献・地域貢献一歩の還元

(1) 大学が有する知的資源を積極的に地域社会に還元し、学術文化の発展に努めます。

(2) 地域に存在する大学として、世界に向けて、教育・健康・福祉等生活の質の向上に貢献します。

(3) 地域に存在する大学として、世界に向けて、水・食料・エネルギーの持続可能な利用に貢献します。

(4) 地域に存在する大学として、世界に向けて、文化・芸術・スポーツの振興に貢献します。

在籍学生数

約4,500人

学生の大半が大学近郊に居住しています。
県内出身者(4割)・県外出身者(6割)
(参考)福島市の人口294,275人(平成21年)

県内(約1,800人) 県外(約2,700人)

主な就職先

多くの卒業生が福島県内の教員、公務員、金融機関職員などの公的分野に就職しています。

平成20年度卒業生	1,014人	就職先	人数
教員	130人	公務員	154人
金融機関	148人	その他	621人
平成19年度	148人	138人	148人
平成18年度	139人	122人	112人

大学教育充実のための戦略的大学連携推進プログラム

平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携推進プログラム」に「高等教育コンソーシアムふくしま」の構築による広域連携型学力向上プログラムとして、県内16の高等教育機関が地域教育事業に共同で取り組むことにより、真の「ふくしま」の教育水準の向上を図る。

課題に直面する地域やものづくりの現場に学生を送り込み、豊かな地域性を持つ真の「ふくしま」を共に作り上げ、有為な人材を地域に送り出すことを目的とする。

質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)

平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」に2件採択

①産官学連携によるGO・街と農村を繋ぐ地域企業(経済経営学類)

南会津地方等の農村部の地域振興への取組に学生を参加させ、「地域企業一企業」を実現地域と学生が共同で経営することを通じて、実践的な経済・経営・会計教育の実現を図り、地域社会に貢献し、地域の産業や新たな経済システムの創造に寄与する人材を育成する。

②科学的理解の深化を促す地域連携型理工教育(共生システム理工学類)

県内科学館等と連携し、学生が一般市民向けの科学教室や展示を企画・製作・実施することを通じて、子どもたちに「伝える」という主体的行動を取り入れることにより、発見的な知識形成型の学習スタイルからの転換を促し、学生自らの学習レベルを大きく向上させる。

研究

研究成果を積極的に地域に還元しています。

プロジェクト研究所は、当該分野の特色を活かした文理融合的研究・新しい教育研究分野の発展に資する研究を推進しています。

①資源循環・商業マネジメント
排出者、運搬者、処理場等の組織は、連携して、減量化、再使用、再資源化のための要素技術、経営情報管理システムを開発しています。

②権利保護システム研究所
いわゆる社会的弱者の権利保護の養成プログラム・カリキュラム・教材のセンター機能及びスーパーバイザー機能を果たしています。

③地域ブランド戦略研究所
地域の特産品などの「モノ」、及びその知名度を高めるためのブランド戦略を推進しています。

④芸術による地域創造研究所
芸術による文化活動を通じた街づくりを推進しています。

⑤発達障害児早期支援研究所
発達障害児及びその保護者に対する支援を行っています。

⑥小規模自治体研究所
小規模自治体における「自律」と「問題の解決に向けた研究活動を展開しています。

受託研究・共同研究

県内外の企業等からの依頼により受託研究・共同研究を行っています。

年度	受託研究	共同研究
平成20年度	50件	173,266千円
平成19年度	38件	139,881千円
平成18年度	24件	85,982千円

現職教員研修

本県教育の充実・発展に貢献しています。

県内の教員の資質向上のため、中核機関として様々な研修事業を実施しています。平成21年度から実施されている「教員免許更新講習」についても、県内対応の中心的役割を果たしています。

①現職教員研修講座
(参考)平成21年度福島県内現職教員数26,438人
教員の資質向上と教育実践の質の向上を図るため、福島県教育委員会と連携して実施。
平成21年度は免許更新講習とは別に5講座を開催しています。

②教育実践研修講座
教員やカウンセラー等を対象に、児童生徒の不登校・いじめ・非行・発達障害・児童虐待等の問題行動に対する個別対応、特別支援教育・スクールソーシャルワーク、授業改善について実施。
(参加者数)
平成21年度 5講座 265人(7/31現在)
平成20年度 14講座 656人
平成19年度 15講座 1,588人

③教員免許状更新講習
平成21年度講習受講予定者数 3,533人
平成20年度講習受講者数 1,610人
(平成19年度福島県教員免許状更新講習受講者数 6,100人) ※
※平成20年度より免許更新講習へ移行

地域貢献等

地域の質の「学び」を応援します

社会人学び直しニーズ対応推進プログラム
『高齢社会における高齢者の権利と生活を支える若い世代育成プログラム』
地域で生活する高齢者や障害者とその家族等の社会的弱者の権利保護に関わる広範多様な相談・支援業務に当たる人材育成プログラム(平成19年度より文科省の委託事業)

教育相談等
①臨床心理・教育相談室の設置(総合教育研究センター、街なかプラザ内)
臨床心理学や教育学等の専門家と教員、教師に対して、心の悩みや心理的、発達的な問題について相談を行う施設。
平成20年度相談総数500件

②発達支援相談室「けやき」の設置(附属特別支援学校内)
市内在住の幼児、小学校3年生までの児童、LD、知的な遅れがないADHD、高機能自閉症等の子どもについて教育相談等を行う施設。
平成20年度相談総数261件

資料2-2-1 福島大学経済学会のディスカッションペーパー

Discussion Paper Series

No.54

資源管理型漁業におけるプール計算制の選択に関する実証分析

井上 健
東田 啓作
阿部 高樹

2008年10月

福島大学経済学会
The Economic Society of Fukushima University
1 Kanayagawa, Fukushima-shi, 960-1296 Japan

漁業におけるプール計算制の選択に関する実証分析[†]

井上 健
東田 啓作
阿部 高樹

①で何らかの漁業管理を行っている漁業組織は1608あり、その中で、漁獲物の主プール制を採用している組織が195あり、中でも、小型底びき網漁業でのプール制を採用している。これらのすべてが全く同じ意味でのプール制を採用している金額を関係者間で均等に配分しているとは解釈できる。漁業センサスでは、漁業管理(3)漁獲物の3つに分類している。資源量の把握、漁獲物の設定、漁業資源の(2)としての、漁獲物の保全・造成・利用の取り決め・監視が主な内容である。禁漁区を含むものは、漁獲量に制限を加えるものだが、直接的なものと、個々の船がある。一方、間接的に漁獲量の制限につながるものとして、乗組員の制限、漁獲・漁期・出漁日数・操業時間の制限などが挙げられる。また、漁獲サイズの制限もどこにプール制が含まれるかは必ずしも明らかでない。プール制は漁獲物の決りには漁業管理の方法としては判断できないという意味ではどこにも分類されない制の漁業管理への影響が間接的であり、しかもその影響の仕方で非常に多く含まれるとも考えられる。いずれにせよ、多種多様な漁業管理に関する規則や制を言えるかもしれない。本稿は、ホッキガイ漁業を対象に、プール制の採用に影響を主目的とする。ホッキガイ漁業は、一部地域を除いて小型底びき網漁業に区分される範囲では、プール制の採用率は非常に高くおよそ1/2である。ホッキガイの結果から得られる便宜は基本的には資源管理を行ったものが享受することになる傾向にある。定着性生物については一般的に採用率が高いが、それとホッキガイ現時点では不明であるが、実証分析を行う上でこの採用率の高さは非常に魅力ある点である。

プール制に関して、簡単に整理を行う。3章では実証分析の方法と実証結果を紹介する。

②漁獲物の決定方法としてプール計算を行っている組織とそうでない組織が存在する。この違いは漁業管理の有無の要因について分析することにある。プール制を採用するかどうかについては組織により様々であるかもしれない。図1は第11次漁業

表5 選択確率の推定値(東北)

漁場	結果1	結果2	結果3	事実
東北1	0.20%	0.00%	0.00%	×
東北2	6.50%	6.30%	6.50%	×
東北3	8.60%	0.00%	0.70%	×
東北4	34.40%	49.10%	42.20%	○
東北5	55.80%	47.00%	51.20%	×
東北6	71.80%	78.80%	76.10%	○
東北7	75.60%	75.50%	75.50%	○
東北8	93.80%	95.10%	94.60%	○
東北9	97.20%	99.80%	99.40%	○
東北10	99.70%	99.80%	99.80%	○
東北11	99.90%	100.00%	100.00%	○

図3 人数の影響(ホッキガイ比率10%)

図5 人数の影響(ホッキガイ比率60%)

資料 2-2-2 学系紹介のホームページ



資料 2-2-3 プロジェクト研究所、学類ホームページ

●発達障害児早期支援研究所ホームページ



●経済経営学類ホームページ



この部分は著作権の関係で掲載できません。

共生システム理工学研究科外部評価概要

(1)実施時期

平成 21 年 2 月～3 月

(2)外部評価委員

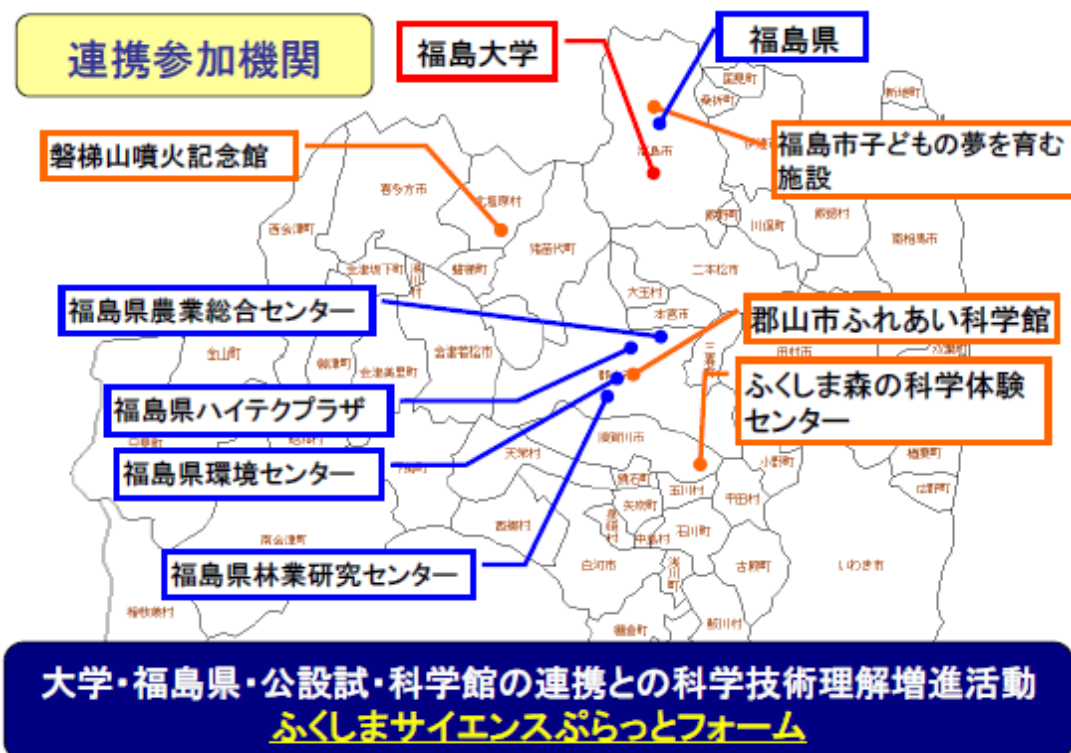
埼玉県環境科学国際センター総長
福島県立医科大学病院長兼理事
共生システム理工学類後援会会長、北芝電気㈱取締役
日本全薬工業㈱代表取締役社長
福島県ハイテクプラザ所長

(3)外部評価での意見と博士後期課程設置への反映

外部評価の意見	博士後期課程設置への反映
① 技術面ばかりでなく、経営、人事運営にもリーダーとなる見識を有する人材を育成してほしい。	博士後期課程のカリキュラムの 5 セメスターに進路に応じて選択する選択必修科目として「工場管理特別演習」「研究開発企画演習」「イノベーション演習」を設け、技術系、研究者系、創業系への対応ができるよう構想し、それぞれの授業内容も生産管理や、製造工程管理、経営戦略等経営、人事運営のリーダーとなるのに必要な具体的な科目を設定した。なお、この科目は大学の教員に加えて、企業人が参画するオムニバス形式の授業として開設した。
②地域特性を生かした地域企業にとって役に立つ人材を育成してほしい。	博士後期課程では、地域の課題がわかるように、福島県全研究機関と協定して、学生が自分の専門性に応じて各研究機関に現場研修、実証研究に出向くことができると同時に、研究機関から研究員が客員教授として大学へ来て授業を持つ制度を確立した。また、研究プロジェクト型研究指導体制という新たな博士後期課程人材育成プログラムを創造し、ここでは県内外の関係企業の研究者、技術者が一緒にプロジェクトに入って博士後期課程の学生の研究指導を行う体制を確立した。
③文理融合型の人材養成が研究者、技術者、公務員等でも必要になっている。	学部教育から大学院教育までをシステム科学を中心に 21 世紀型の人材養成を目的としています。博士後期課程では共生の概念理解と研究への実践的展開を学習する「共生システム特別講究」に加えて、「人科学特別講究」を設けて、いずれかを選択する選択必修科目として、生理学や心理学など人科学を理解することを基礎としている。また、①でも述べたとおり、5 セメスターに進路に応じて選択する選択必修科目として「工場管理特別演習」「研究開発企画演習」「イノベーション演習」を設け、技術系、研究者系、創業系への対応ができるよう構想し、それぞれの授業内容も生産管理や、製造工程管理、経営戦略等経営、人事運営のリーダーとなるのに必要な具体的な科目を設定するなど多様な職種に適応できるよう文理融合を基にシステム科学が研究できるようした。
④博士課程カリキュラムの中で経済学原理、マネジメント、実業界の事例研究等を組み込む必要がる。	博士後期課程のカリキュラムの 5 セメスターに進路に応じて選択する選択必修科目として「工場管理特別演習」「研究開発企画演習」「イノベーション演習」を設け、技術系、研究者系、創業系への対応ができるよう構想し、それぞれの授業内容も生産管理や、製造工程管理、経営戦略等経営、人事運営のリーダーとなるのに必要な具体的な科目を設定した。なお、この科目は大学の教員に加えて、実業界の事例研究が学べるように企業の研究者、実務家が参画するオムニバス形式の授業として開設した。
⑤専門性だけではなく「人」も含めた人材育成を実施してほしい。	博士後期課程では、研究プロジェクト型指導体制という新しい研究者養成システムを導入し、専門領域内での集団指導体制を確立するとともに、プロジェクトの中には、公私の研究機関の研究員、企業経営者、研究者等を交えた教育システムとなっており、プロジェクトの中で研究会を開催し、意見を述べ合うことを実践的に行い、研究推進することになっている。こうした環境で専門性だけではなく、社会人としての「人」も育成できるシステムにした。

(出典：共生システム理工学研究科)

資料3-1-1 「地域ネットワーク支援」(ふくしまサイエンスぷらっとフォーム)



イベント名「図書館サイエンスワークショップ」

【開催日】平成21年11月10日

【参加者数】66人 【対象】就学前児童～一般

【場所】ムシテックワールド・須賀川市岩瀬図書館

ムシテックワールドが担当して地元の須賀川市の岩瀬図書館と連携して開催。今回は昆虫、特にトンボをテーマに、図書館司書とムシテックワールド職員による関連図書の読み聞かせと、その後ムシテックワールドの講師による標本と捕獲したばかりのヤゴなどの昆虫の紹介、そしてそれらに関連する科学工作「バランストンボ」を全員で作成した。



この部分は著作権の関係で掲載できません。

●「地域ネットワーク支援」イベント一覧

開催日	事業名	開催場所	参加者数 (目安)
平成 20 年度			
8/2	子どもアグリ科学教室「葉脈標本作り」	福島県農業総合センター	20 名
8/3	集まれっ！ハイテクプラザ 2008	福島県ハイテクプラザ	1,000 名
8/7	第 2 回林業研究センターミニ参観デー	福島県林業研究センター	40 名
8/13	夏休みおもしろ実験 工作教室	ふくしま森の科学体験センター	1,000 名
8/13	サイエンスフェスティバル	郡山市ふれあい科学館	2,000 名
9/6	JST 地域活動支援事業「磐梯山シンポジウム」	国立磐梯青少年交流の家	80 名
10/11～15	まなびピアふくしま 2008	ビックバレットふくしま	200 名
10/26	林業祭	福島県林業研究センター	1,000 名
11/1	JST 地域活動支援事業「ムシの生態を通して、地球の豊かな自然について考える」	ふくしま森の科学体験センター	60 名
11/15	ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム設立記念イベント「無重力を体感する？クイズに答えて賞品ゲットしよう」	郡山市ふれあい科学館	40 名
11/15	ふくしまサイエンスぷらっとフォーラムワーキンググループ研修会(第 3 回)講演「研究・科学普及活動と地域連携について」	郡山市ふれあい科学館	12 名
12/6	子どもアグリ科学教室(イベント参画)	福島県農業総合センター	50 名
1/10	ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム事業恐竜は火山を見ていた!?	福島市 こむこむ	40 名
1/10	郡山市ふれあい科学館主催・福島大学後援「サイエンスセミナー」	郡山市ふれあい科学館	40 名
2/13	2008 年度会津博物館連絡協議会研修会	福島県立博物館	60 名
3/11	福島県農業総合センター『成果発表会』	福島県農業総合センター	30 名
3/20	石井研堂の足跡を訪ねて	福島県立博物館	20 名
3/21	シンポジウム～磐梯山をジオパークにしよう	福島県立博物館	150 名
平成 21 年度			
4/4	君は火山を見たことがあるか?!	ふくしま森の科学体験センター	40 名
5/2～6	サイエンスフェスティバル	郡山市ふれあい科学館	1,500 名
6/20	こどもアグリ教室①	福島県農業総合センター	30 名
7/18～20	養老館長と昆虫採集しよう!ライトトラップで夏の虫を捕まえよう	ふくしま森の科学体験センター	120 名
7/18～20	サイエンスフェスティバル 2009	郡山市ふれあい科学館	3,000 名
7/25	こどもアグリ教室②『米粉でなにができるかな?』	福島県農業総合センター	30 名
8/1	こどもアグリ教室③『てんぷら油でトラクターが動く?』	福島県農業総合センター	30 名
8/1	夏休み自由研究 君もめざそう!紙はかせ	しらさわ夢図書館	50 名
8/8	集まれっ！ハイテクプラザ 2009	福島県ハイテクプラザ	500 名
8/8	サイエンス屋台村	福島市 こむこむ	2,200 名
8/11～17	夏休みおもしろ実験工作教室	ふくしま森の科学体験センター	1,000 名
8/12～16	サイエンスフェスティバル 2009	郡山市ふれあい科学館	3,000 名
9/5～6	農業総合センター祭り	福島県農業総合センター	1,000 名
9/14	磐梯山をジオパークに！講座「白頭山の謎」	北塩原村立裏磐梯中学校	50 名
9/26	子どもアグリ教室④『身近なもので染めてみよう(草木染)』	福島県農業総合センター	30 名
10/17	子どもアグリ教室⑤『お米の食べくらべをしてみよう』	福島県農業総合センター	30 名
10/24	福島県発明展	白河市中央体育館	200 名
10/28	阿賀川大露頭の観察会	喜多方市真木泡の巻橋公園	30 名
11/1	ムシテックワールド開館記念日イベント	ふくしま森の科学体験センター	2,500 名
11/8	ジオパーク先進地、島原半島から学ぶ	福島県立博物館	100 名
11/8	コスミックカレッジ キッズコース	郡山市ふれあい科学館	50 名
11/10	図書館ワークショップ	岩瀬図書館	50 名
12/12・13	実験ラボ『菜種油づくり』	ふくしま森の科学体験センター	60 名
12/13	地球と宇宙の火山どっちが大きい?!	郡山市ふれあい科学館	40 名
1/9	郡山市ふれあい科学館主催・福島大学後援「サイエンスセミナー」	郡山市ふれあい科学館	40 名
2/20	ふくしま産業交流フェア 2010	福島市こらっせ	500 名

資料 3－1－2 「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」

この部分は著作権の関係で掲載できません。

●「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」一覧



ものづくりプラントキャンパス・プログラム 「工場訪問」

初年次教育共同プログラム 「高等学校での模擬講義」

生涯学習プログラム 「市町村議員講座」

SD合同研修プログラム 「クレーム対応研修」

1. 初年次教育共同プログラム

高校の先生方と力を合わせて「本当の学力とは何か」について議論を深めます。進学して間もない時期にきちんと学んでおくべきことをまとめた冊子『福島で学ぶ』（仮題）の刊行を目指します。

2. 「福島学」プログラム

福島県で学ぶ学生のみなさんに福島を知ってもらいたい。すでに「会津学」「いわき学」「福島研究」等として行われている「地元学」をもとに、福島を知るための「福島学」として内容を深めることを目指します。

3. SD合同研修プログラム

教員と協働して高等教育機関の運営に携わる事務職員の能力開発をすすめます。クレーム対応、文章作成、ストレス・マネジメントなどについて経験交流と先進事例の学習を行い、人事交流も視野に入れます。

4. 高大連携プログラム

進学を目指す高校生のみなさんに、受験前にもっと大学を知ってもらうための体験授業を行います。また保護者のみなさんも対象とする進学セミナー、あるいは分野別の進学ガイダンスを共同で開きます。

5. 医療・福祉共同教育プログラム

NPO等の協力を得ながら、医療や福祉の現場に触れる機会を学生のみなさんに提供します。また地元の医師会等と連携しつつ、地域医療や福祉の現状と課題を深く知るための調査実習を実施します。

6. エリアキャンパス・プログラム

地域を大学キャンパスに見立て、地域社会の現場で学ぶプロジェクトです。中心市街地の活性化、過疎地域の限界集落問題、都市と農村の交流といったテーマを、地域の人々と一緒に現場で学習します。

7. 「生きる力」養成プログラム

学生のみなさんが学習や就職のことなどで精神的な困難につきあつたとき、どんなアドバイスやカウンセリングが有効か、共同で研究します。「立ち直り」のDVDドラマを学生と一緒に制作することも予定しています。

8. ものづくりプラントキャンパス・プログラム

福島県は全国有数の製造業の集積県です。学生のみなさんにもっと地元の優れた企業の現場に触れていただくための、工場見学を企画します。また、ものづくりを中学生などに教えたりするコンテストも企画しています。

9. 福島「学び」カード・プログラム

県内の高等教育機関の図書館等の施設を、学生が共同で利用できる仕組みを考えています。学生のみなさんだけでなく、広く県民にも利用してもらえるカードを発行し、公開講座の受講料を割引するといったことも考えられます。

10. 国際化プログラム

留学生が増えていますし、外国人数員も県内には少なくありません。地域社会の国際化も進んでいます。留学生と日本人の交流を図る弁論大会、日本語研修講座、短期語学研修の相互乗り入れなどを計画しています。

11. 生涯学習プログラム

いろんな大学で実施している市民向け公開講座の情報をまとめて提供します。また共同で開催する市民講座、医療や福祉・農業等の職業別講座、さらには地方議会の議員向けセミナーなどを実施します。

12. 教員養成・研修高度化プログラム

良い先生とはどういう人のことを言うのでしょうか。教員に求められる資質やスキルなどの理解を深めます。また「教員になる」とこととあわせ「教員になってから」の課題にも共同で取り組みます。

（出典：「アカデミア・コンソーシアムふくしま」パンフレット）

この部分は著作権の関係で掲載できません。

資料 3-1-3 海外諸大学との協定締結

●国際交流協定締結校一覧

国 名／地域名	大 学 名	締結年月日
中 国	北京師範大学	1990年12月11日
アメリカ合衆国	ウイスコンシン大学オークレア校	1992年12月 8日
カ ナ ダ	ビクトリア大学	1993年 7月20日
中 国	華東師範大学	1995年 7月 1日
アメリカ合衆国	ミドルテネシー州立大学	1996年 7月 2日
中 国	河北大学	1998年11月 2日
中 国	中南財經政法大学	2001年 3月22日
ベ ト ナ ム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	2001年 6月20日
オーストラリア	クイーンズランド大学	2001年10月26日
韓 国	韓国外国語大学校	2006年 3月14日
台 湾	国立台北大学	2007年 4月 3日
ベ ト ナ ム	ベトナム国家大学ハノイ自然科学大学	2007年 9月24日
イ ギ リ ス	スターリング大学	2008年 1月25日
韓 国	白石大学校・白石文化大学	2008年12月8日
ド イ ツ	ルール大学ボーフム	2009年10月8日

(出典：福島大学ホームページ)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(出典：平成 21 年 1 月 20 日「福島民報」)